地域リハビリテーションの課題

コロナ禍で見えてきたもの

全国地域リハビリテーション合同研修大会 in 長崎2024
名誉大会長　松坂誠應

講演のあらすじ

① コロナ禍の影響：あの時、医療と介護は？

② 高齢者人口の推移と諸問題：2025年/2040年問題

③ 地域リハの歴史から：それら問題の対策は？

④ 地域包括ケアと推進のカギ：基本戦略は？

⑤ コロナ禍の影響：通いの場は？　住民の主体性は？

⑥ コロナ禍の影響：ネットワークづくりは？

⑦ これからの支援のあり方

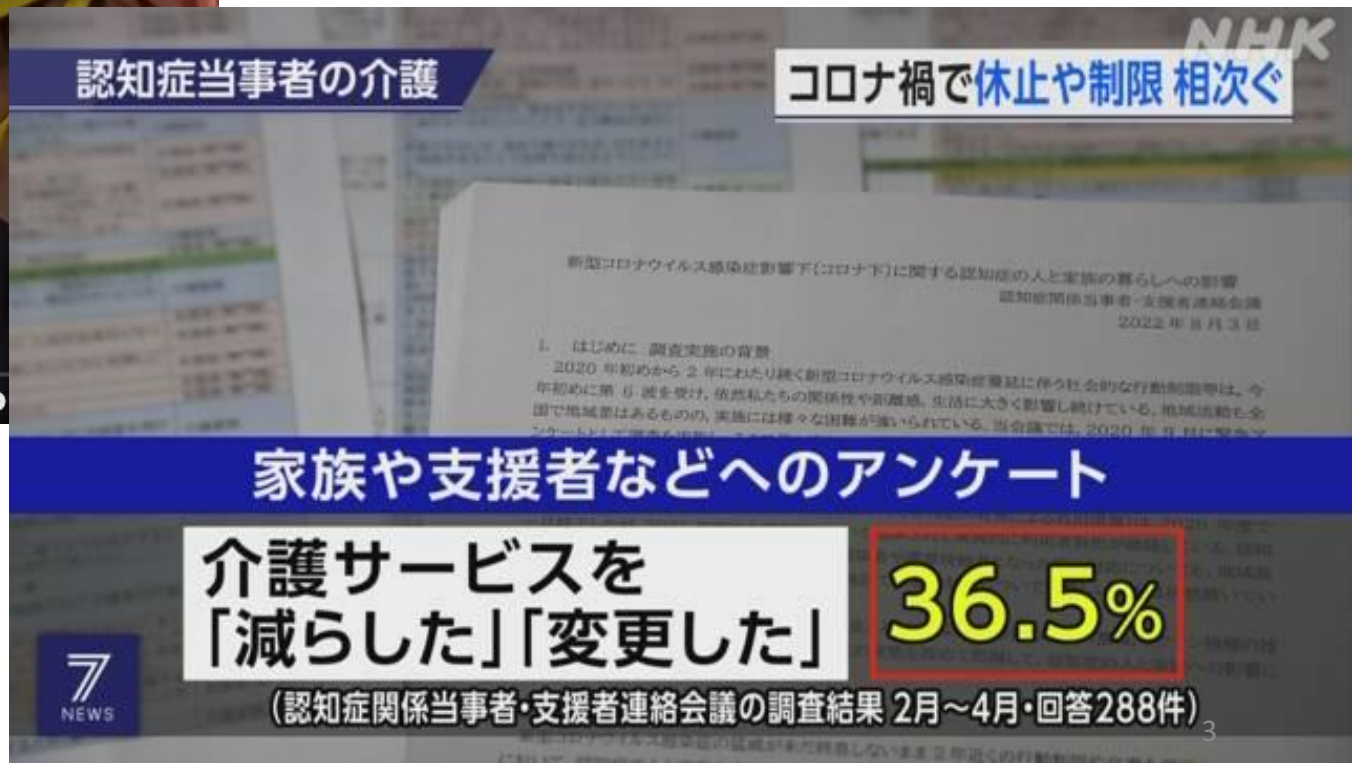
コロナ禍の影響：あの時、医療と介護は！

2022/8/17-日テレNEWS

【新型コロナ】“救急搬送困難事案“が過去最多 救急隊「自宅療養で治して」 - YouTube

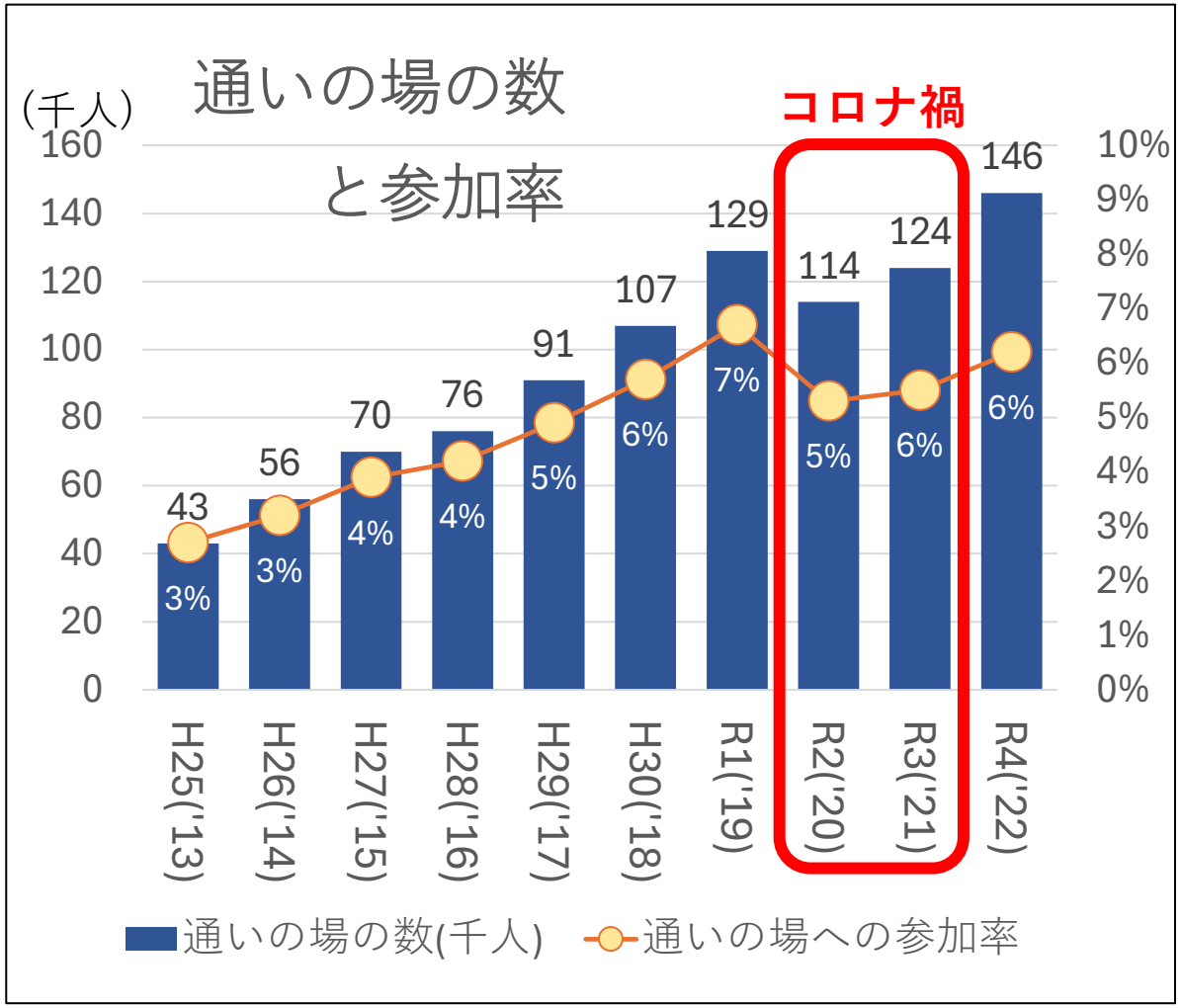
2022年9月24日 16時23分-NHK

認知症の独居高齢者がコロナ感染 介護サービス受けられない？｜NHK｜新型コロナウイルス

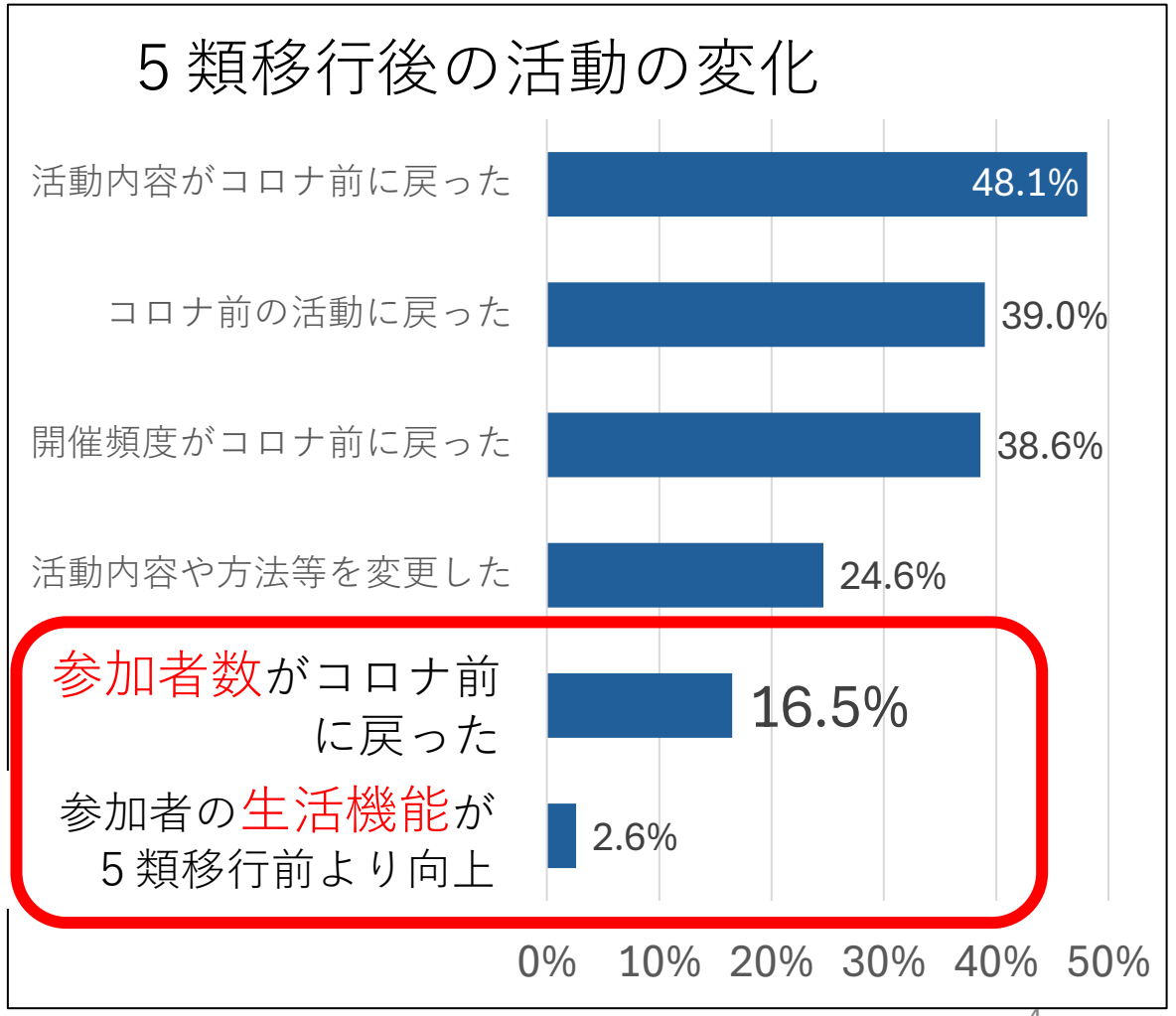


コロナ禍：通いの場への影響

001244024.pdf (mhlw.go.jp) R6.3月



日本能率協会総合研究所
https://www.jmar.co.jp/2024/05/22/llgr5_60_handbook.pdf



コロナ禍の影響

● 関係者への影響

- ✓ リハ専門職間のネットワーク希薄化
- ✓ リハ専門職と他職種間のネットワーク希薄化
- ✓ 住民との連携が希薄化
- ✓ 行政の積極性に問題　など

日本リハビリテーション病院・施設協会(2021)

● 住民への影響

- ✓ 体力の低下（フレイルなど）
- ✓ 生活機能の低下
- ✓ 認知機能の低下
- ✓ 介護予防への意欲の低下
- ✓ 助け合いの頻度が減少 など

日本能率協会総合研究所（2024）

講演のあらすじ

① コロナ禍の影響：あの時、医療と介護は？

② 高齢者人口の推移と諸問題：2025年/2040年問題

③ 地域リハの歴史から：それら問題の対策は？

④ 地域包括ケアと推進のカギ：基本戦略は？

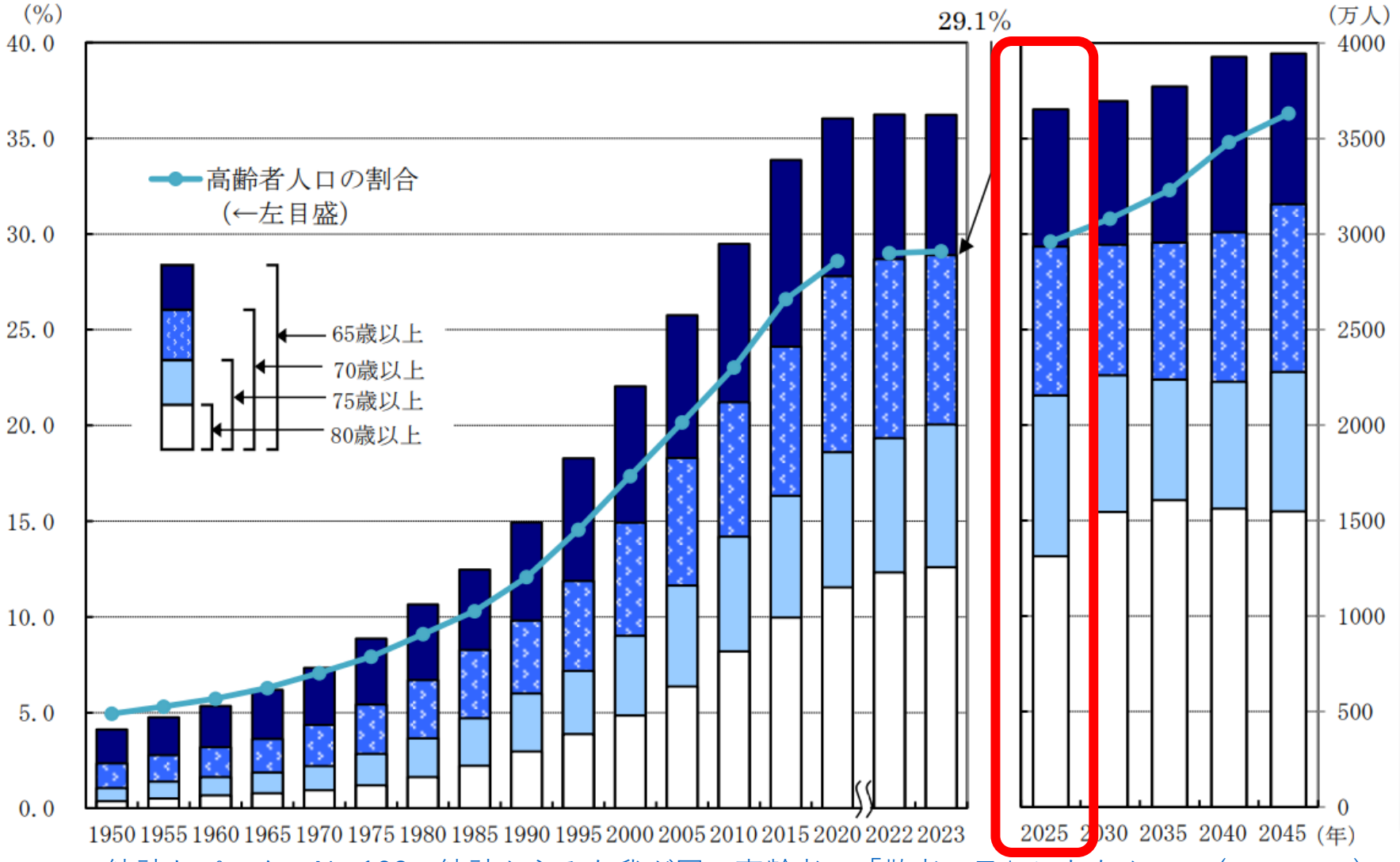
⑤ コロナ禍の影響：通いの場は？　住民の主体性は？

⑥ コロナ禍の影響：ネットワークづくりは？

⑦ これからの支援のあり方

総務省統計局（2023年９月17日現在推計）

高齢者人口の推移と2025年問題



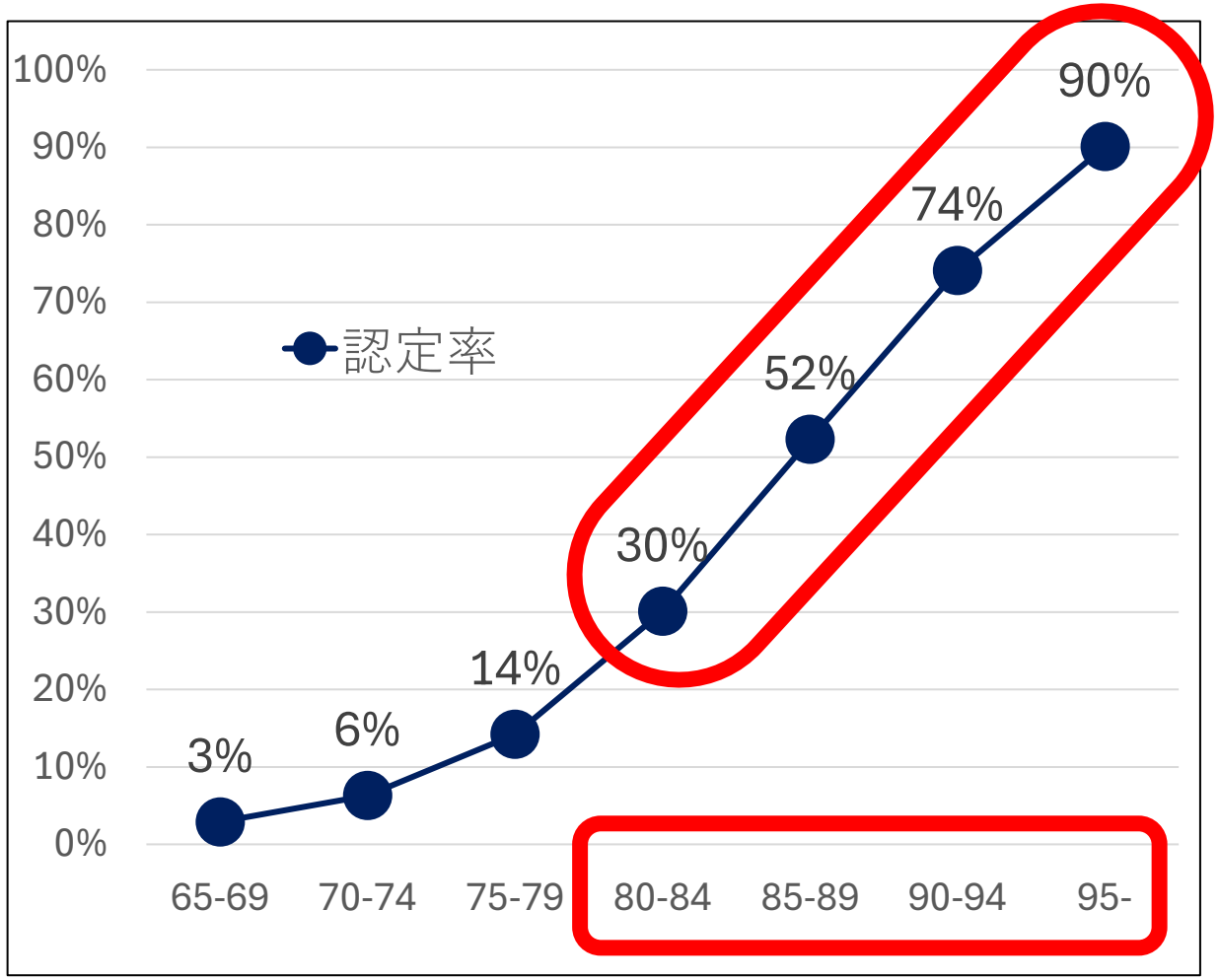
全団塊世代が後期高齢者に

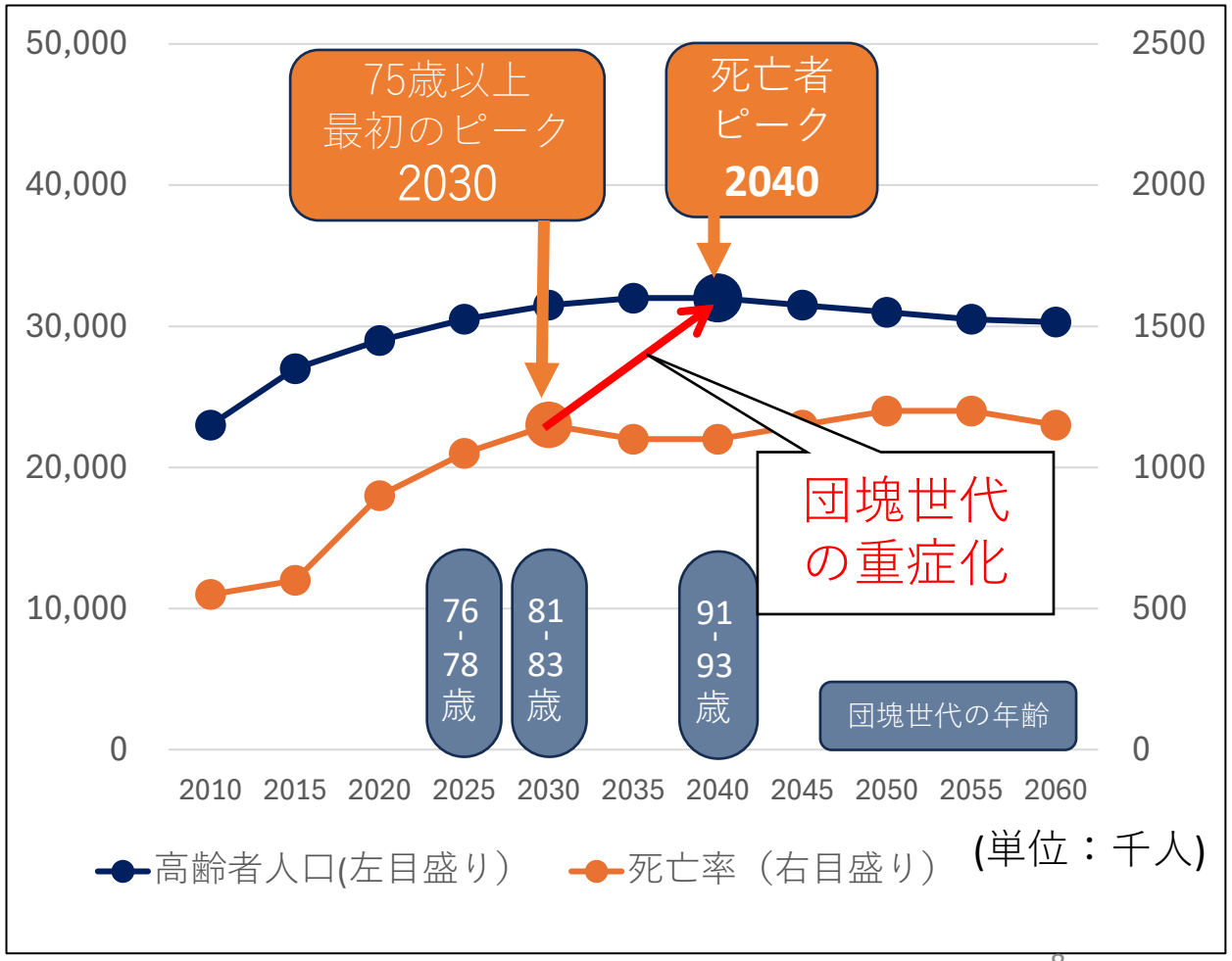
六五歳以上が五人に一人！
認知症者が七百万人！
働き手の減少

統計トピックスNo.138　統計からみた我が国の高齢者－「敬老の日」にちなんで－（stat.go.jp）

年齢別の介護認定率：団塊世代の重症化

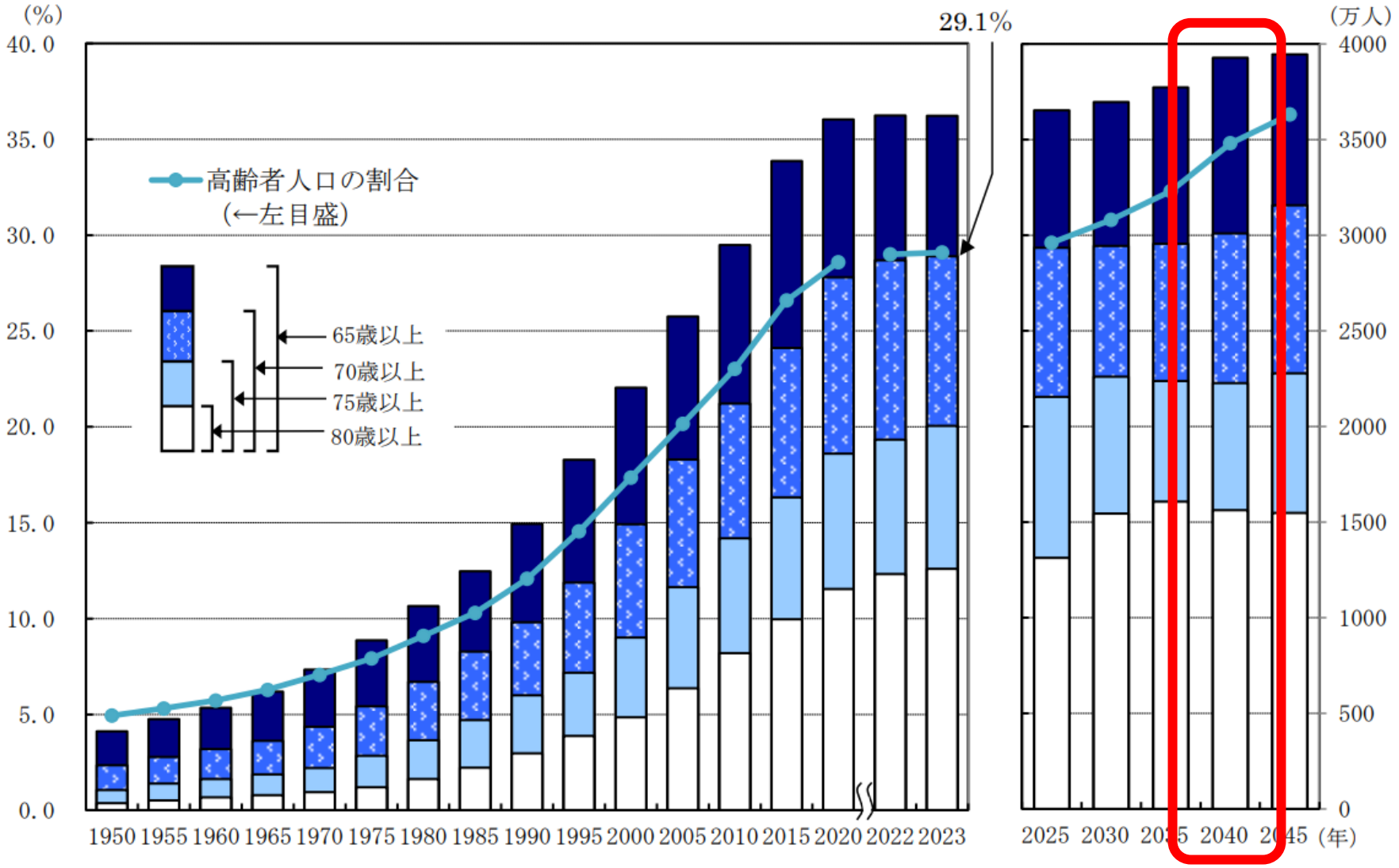
地域包括ケア研究会報告書（H29/2017）より





総務省統計局（2023年９月17日現在推計）

高齢者人口の推移と2040年問題



団塊ジュニア世代が高齢者に

高齢者人口がピークに！

統計トピックスNo.138　統計からみた我が国の高齢者－「敬老の日」にちなんで－ (stat.go.jp)

2040年問題

2040年問題とは？図解でわかりやすく解説します！（syukatsu-life.com）

高齢者人口がピーク

（団塊ジュニアが高齢者に）

65歳以上
１人

生産年齢
人口1.5人

労働人口の激減

担い手不足の予測

「輸送」「建設・土木」「生産」
「販売」「接客・調理」
「医療」「介護」

- **医師・介護士等の不足**
- 医療費・介護費の増加
- 社会保障給付費（年金など）の増大

既存の医療・介護サービスでは対応困難

2040年を展望した社会保障・働き方改革について (mhlw.go.jp)

講演のあらすじ

① コロナ禍の影響：あの時、医療と介護は？

② 高齢者人口の推移と諸問題：2025年/2040年問題

③ 地域リハの歴史から：それら問題の対策は？

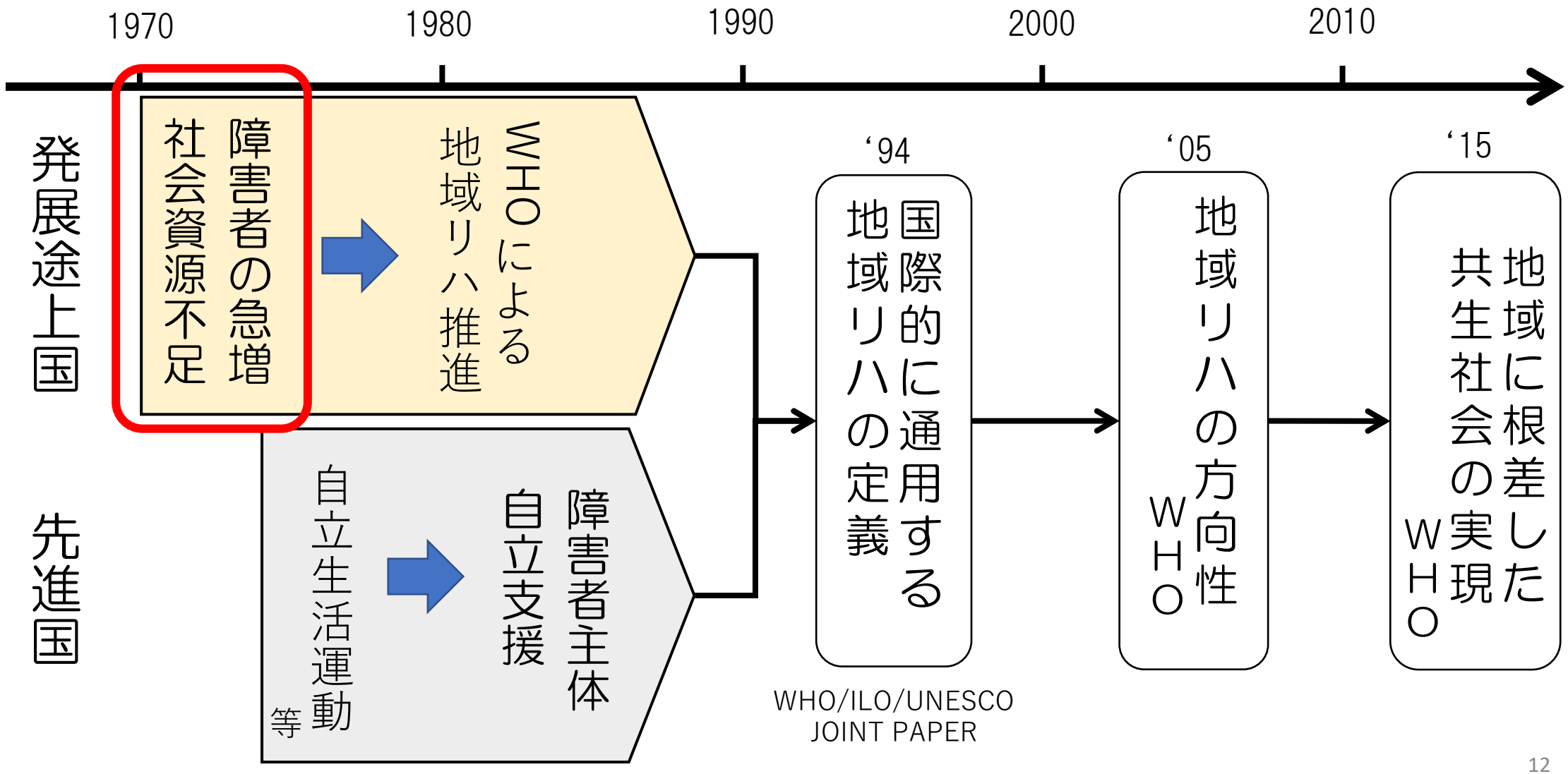
④ 地域包括ケアと推進のカギ：基本戦略は？

⑤ コロナ禍の影響：通いの場は？　住民の主体性は？

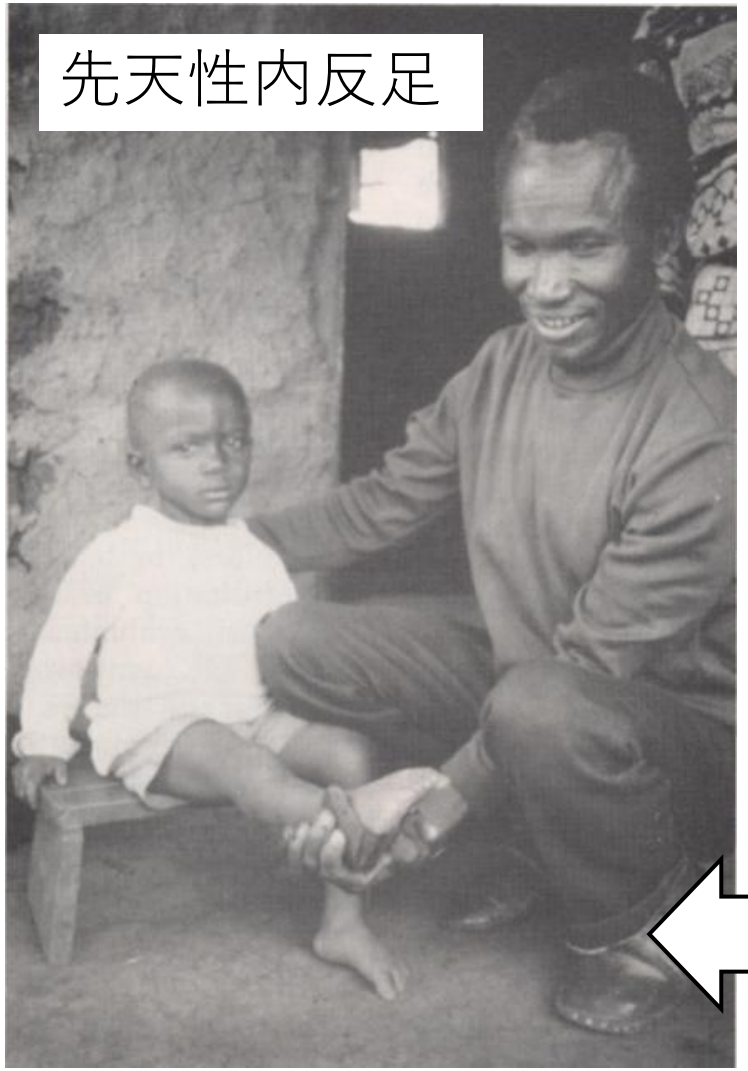
⑥ コロナ禍の影響：ネットワークづくりは？

⑦ これからの支援のあり方

地域リハの歴史から学ぶ



住民による支援



- 父親自作の装具を装着
- 近隣の住民子供が支援

障害者の
社会参加実現

家族や地域が
支える

Spontaneous rehabilitation
自然発生的な
リハビリテーション

途上国の基本戦略

障害者の急増

専門職の不足

社会資源不足

予防とリハ

地域住民の活用

支援体制整備

住民同士の支え合い

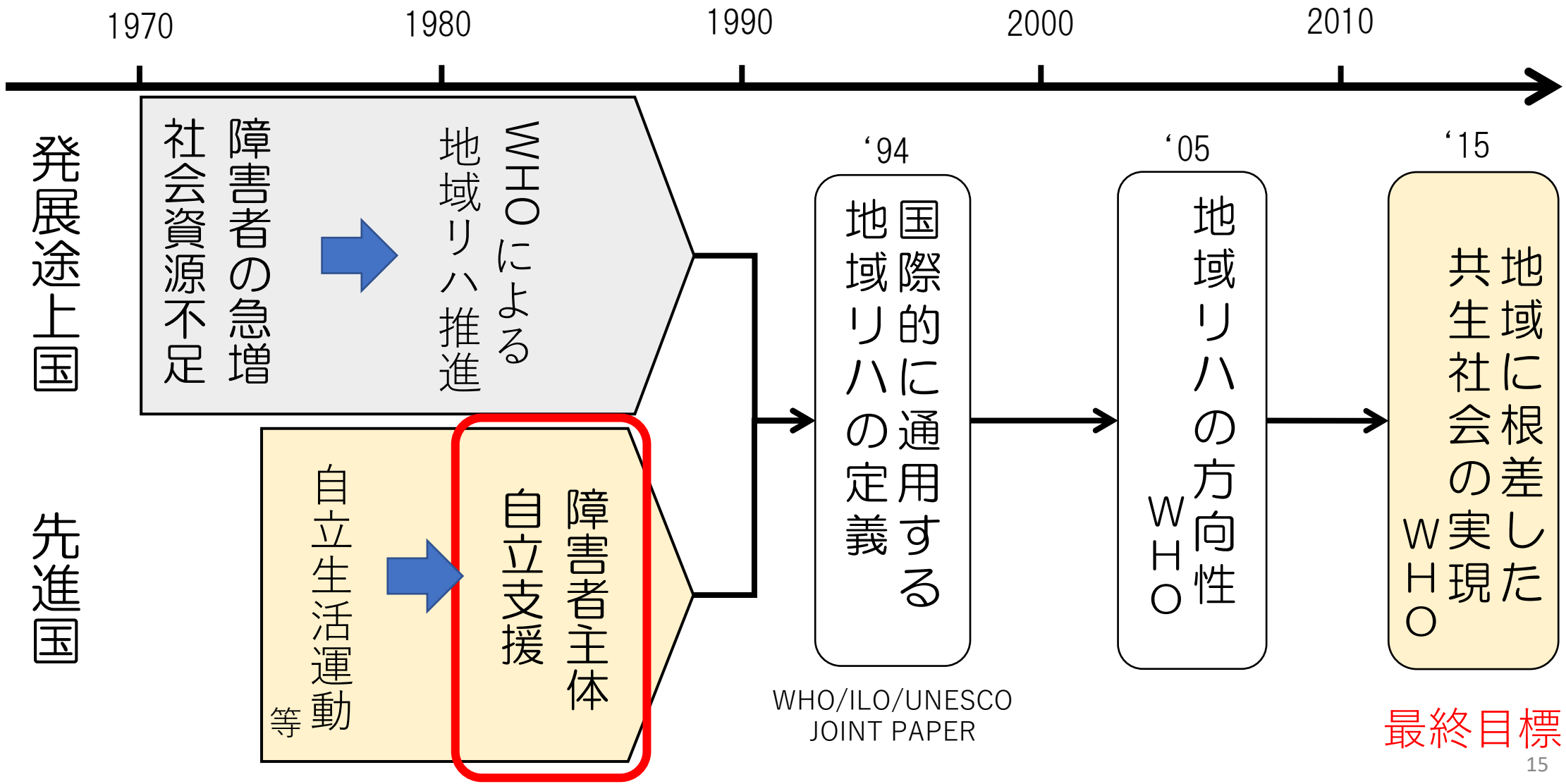
支援

エイズ孤児

支援

広域的機関

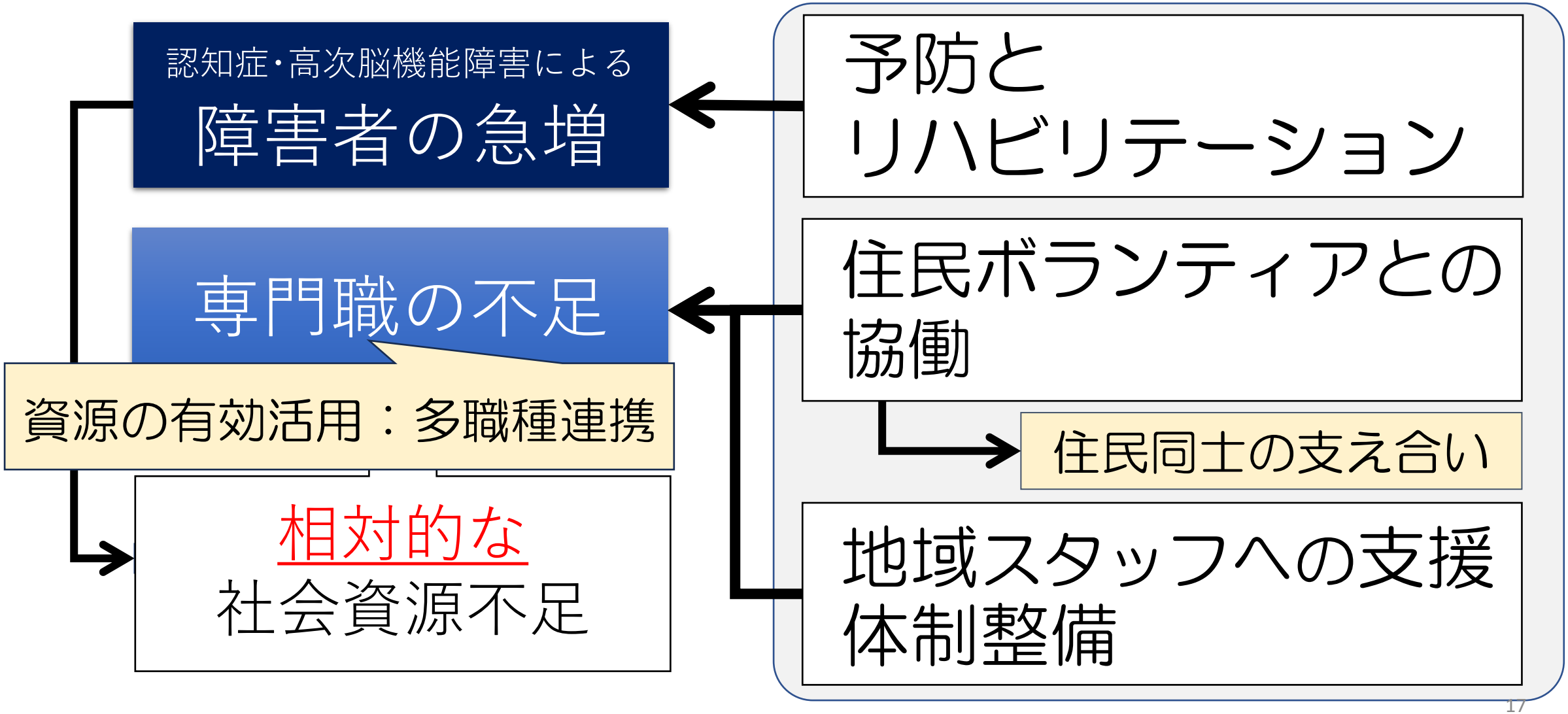
地域リハの歴史から学ぶ



認知症を含めた高齢者の通所施設　ロンドン

- 複雑なニーズを有する認知症のケアは公的サービスだけでは対応できない。
- ボランティアの参画で利用者のQOL向上

先進国の状況と地域リハの戦略



地域リハの基本戦略と最終目標

- 障害者の急増
  - 予防とリハ
- 専門職の不足（社会資源不足）
  - 地域住民との協働
  - 支援体制整備

最終目標

Community Based Inclusive Development

地域に根差した共生社会

地域リハ(CBR)の戦略

cbid.pdf (afri-can.org) WHO (2015)

地域リハの基本戦略

- 障害者の急増
- 専門職の不足（社会資源不足）

- 予防とリハ
- 地域住民との協働
- 支援体制整備

地域住民参加の効果

① 当事者･家族の生活意欲向上

② 住民同士の支え合い醸成

地域住民との関わり方

① パートナー：主体性が前提

「活用」でなく「協働」

② 専門職の代替として参画

③ 住民の専門的指導を行う

講演のあらすじ

① コロナ禍の影響：あの時、医療と介護は？

② 高齢者人口の推移と諸問題：2025年/2040年問題

③ 地域リハの歴史から：それら問題の対策は？

④ 地域包括ケアと推進のカギ：基本戦略は？

⑤ コロナ禍の影響：通いの場は？　住民の主体性は？

⑥ コロナ禍の影響：ネットワークづくりは？

⑦ これからの支援のあり方

2040年問題

高齢者人口がピーク

（団塊ジュニアが高齢者に）

65歳以上
1 人

生産年齢
人口1.5人

労働人口の激減

2040年問題とは？図解でわかりやすく解説します！（syukatsu-life.com）

医療介護の人手不足

既存の医療・介護ｻｰﾋﾞｽでは対応困難

地域包括ケア

● 2040年に向けて求められる事

① 予防・リハビリテーションの重視
② 住民の社会参加（もう一つの予防）
③ 多職種連携
④ 地域マネジメント／わが街をどうするか
市町村が中心に取組むべき
⑤ 地域の実情や創意工夫を活かした体制

地域包括ケア研究会報告書（H29/2017）

地域包括ケアと推進のカギ

地域包括ケア研究会報告書（2017年3月）

地域包括ケアとは

高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもと、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるような包括的な支援・サービス提供体制の構築を目指す

目標：
地域共生社会

介護予防とリハ

健康寿命の延伸

住民の**社会参加**
支え合い

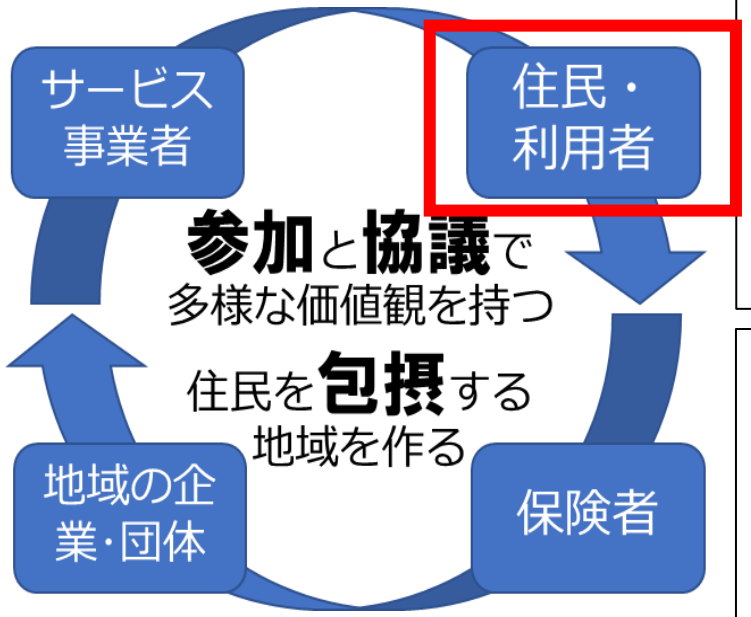
多職種連携

医療・介護・
行政・住民等

推進のカギ

住民の主体的活動を前提にした地域包括ケア

●地域包括ケアシステムは「地域の実情にあった」仕組みを、その地域ごとで設計することが前提　…（中略）「地域ごとに住民が望む地域の姿を描き、そのための仕組みづくりやサー ビスづくりに参加し協働して地域づくりを進めること」（地域デザイン）が必要である。p15



● また地域の仕組みのレベルでは地域支援事業を活用することで、保険者と専門職・事業者が多職種連携を通じて、また住民との協働を通じて、それぞれの地域の実情に適合した仕組みを作っていくことができる。p16

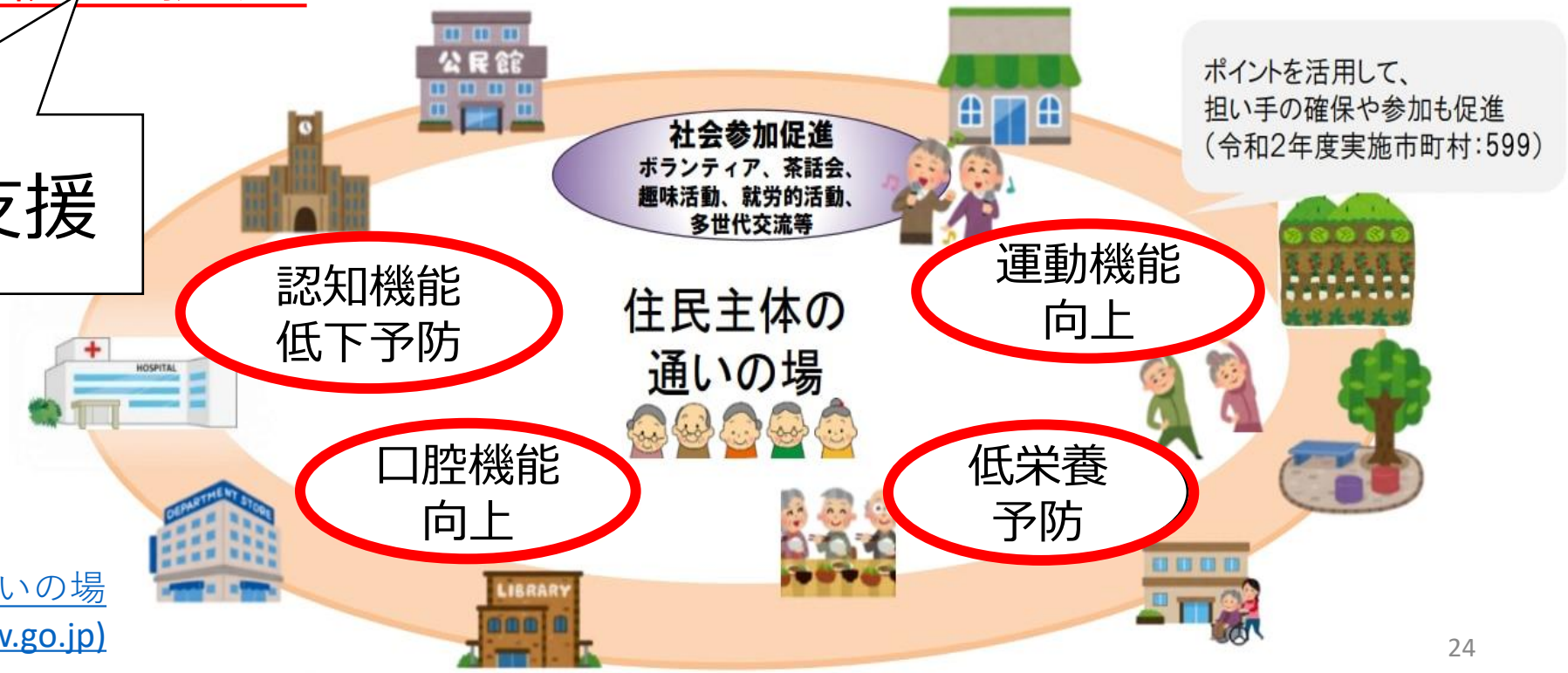
● 地域包括ケアシステムの先進事例として取り上げられる取り組みの多くが、（略）住民・利用者との双方向のやり取りの中で、作り上げられたといえる。「体操教室」に集まる高齢者が発展的に地域で生活支援の取組を始めたり… p17

住民主体の通いの場

住民の主体性

- 地域の**住民**同士が気軽に集い、一緒に活動内容を企画し、ふれあいを通して「生きがいづくり」「仲間づくり」の輪を広げる場
- 地域の介護予防の拠点となる場

多職種による支援



地域がいきいき 集まろう！通いの場
厚生労働省 (mhlw.go.jp)

住民主体の通いの場での活動

長崎市福田地区さんさんクラブ

認知症の学び

花壇の手入れ

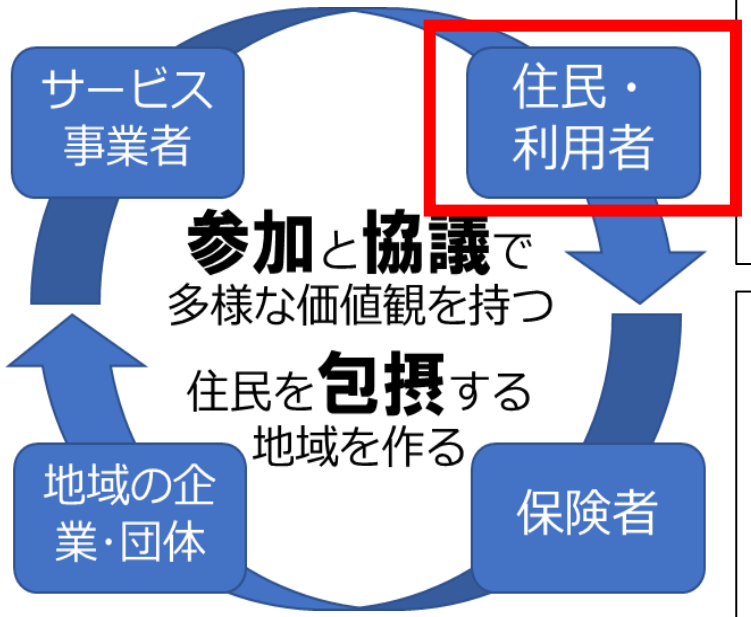
栄養の学び

コーラス

花見

住民の主体的活動を前提にした地域包括ケア

●地域包括ケアシステムは「地域の実情にあった」仕組みを、その地域ごとで設計することが前提　…（中略）「地域ごとに住民が望む地域の姿を描き、そのための仕組みづくりやサー ビスづくりに参加し協働して地域づくりを進めること」（地域デザイン）が必要である。p15



● また地域の仕組みのレベルでは地域支援事業を活用することで、保険者と専門職・事業者が多職種連携を通じて、また住民との協働を通じて、それぞれの地域の実情に適合した仕組みを作っていくことができる。p16

● 地域包括ケアシステムの先進事例として取り上げられる取り組みの多くが、（中略）住民・利用者との双方向のやり取りの中で、作り上げられたといえる。「体操教室」に集まる高齢者が発展的に地域で生活支援の取組を始めたり… p17

住民主体の通いの場での活動

長崎県壱岐市

転倒予防の体操

健康づくり

仲間との食事会

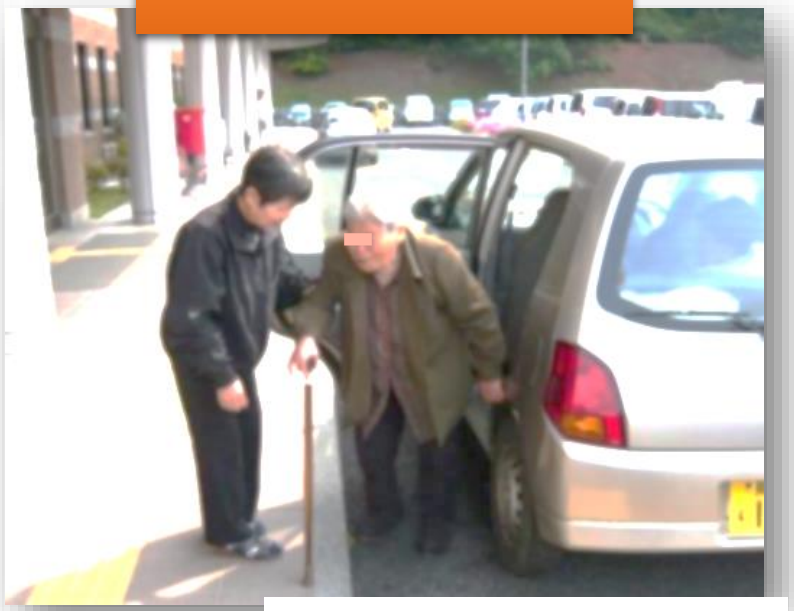
仲間づくり

元医師会長の講話

仲間とのピクニック

住民の主体的活動で作りあげられる

支え合い


仲間による通院介助

地域包括ケアと推進のカギ

地域包括ケア研究会報告書（2017年3月）

地域包括ケアとは

高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもと、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるような包括的な支援・サービス提供体制の構築を目指す

目標：
地域共生社会

介護予防とリハ

健康寿命の延伸

住民の**社会参加**
支え合い

多職種連携
医療・介護・
行政・住民等

推進のカギ

講演のあらすじ

① コロナ禍の影響：あの時、医療と介護は？

② 高齢者人口の推移と諸問題：2025年/2040年問題

③ 地域リハの歴史から：それら問題の対策は？

④ 地域包括ケアと推進のカギ：基本戦略は？

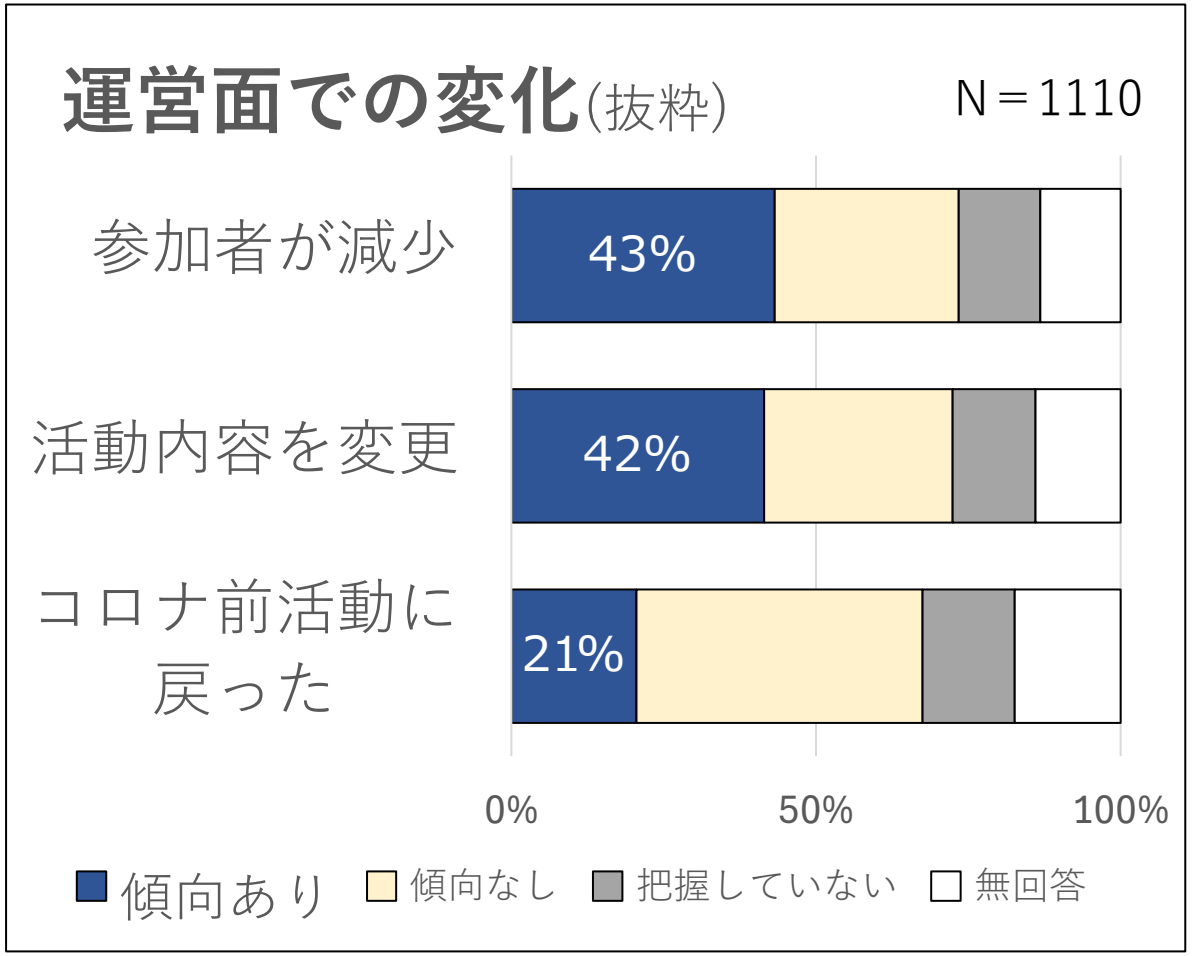
⑤ コロナ禍の影響：通いの場は？　住民の主体性は？

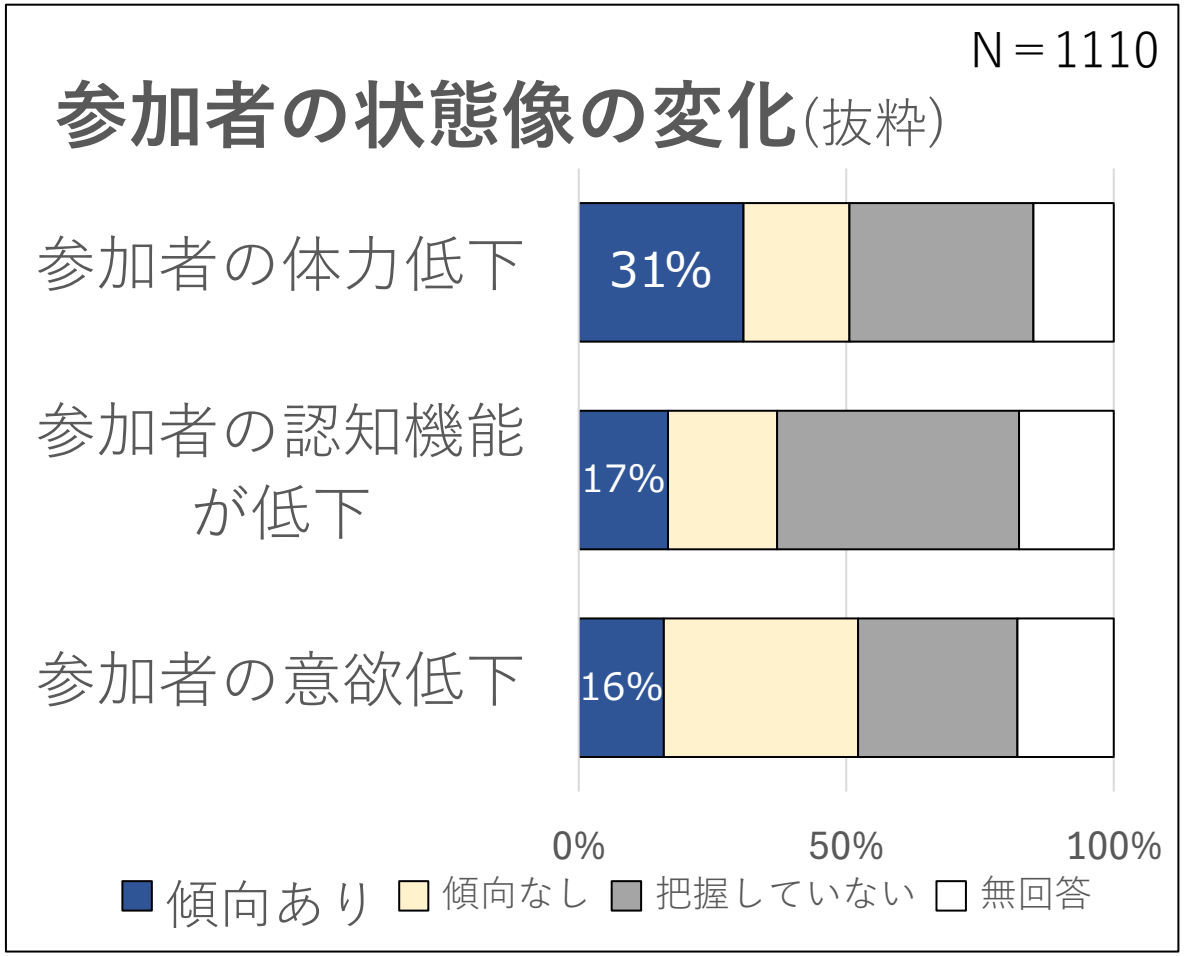
⑥ コロナ禍の影響：ネットワークづくりは？

⑦ これからの支援のあり方

コロナ禍の影響：通いの場

2022年10-11月調査

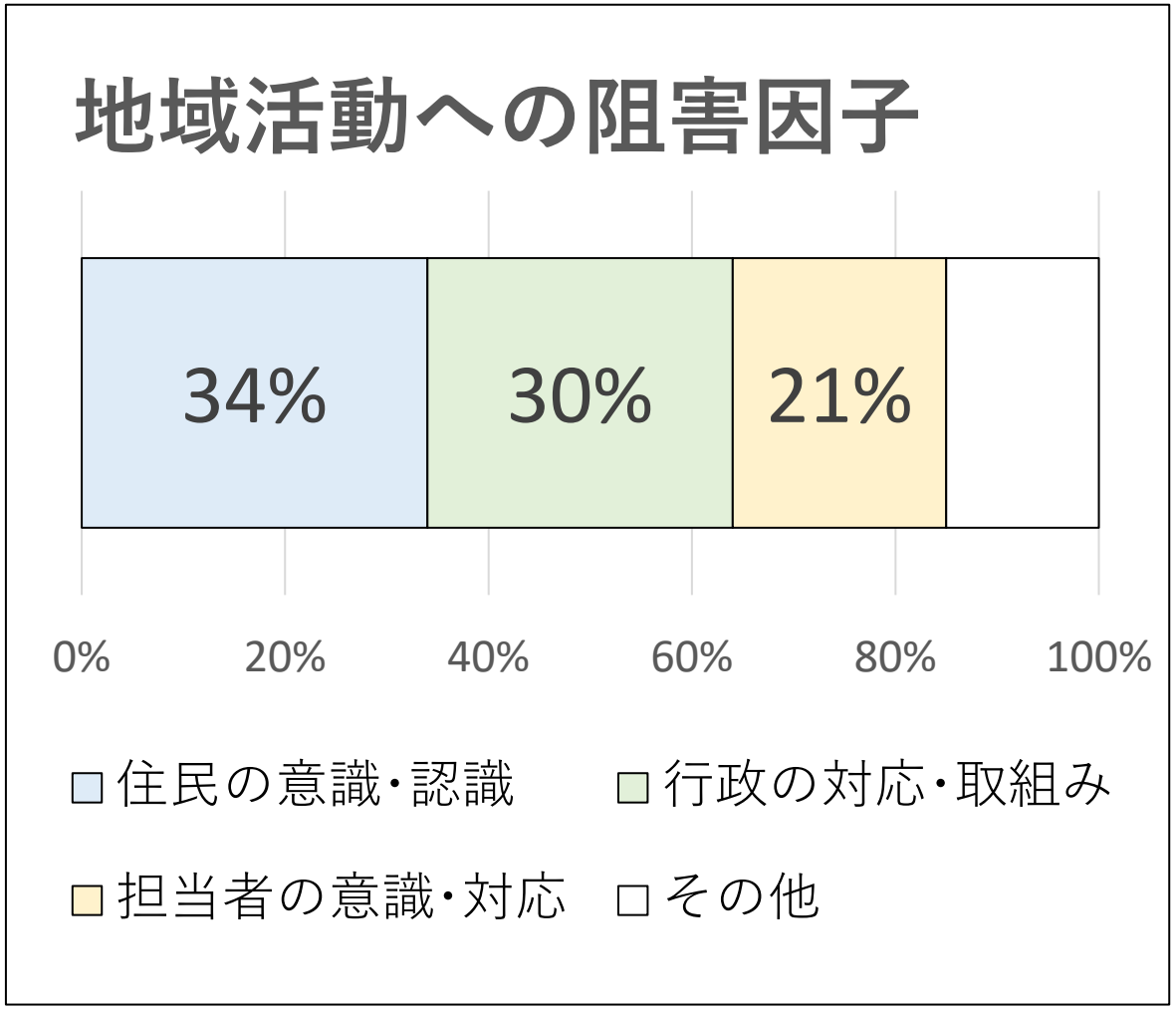




アフターコロナにおける通いの場の展開ハンドブック
https://www.jmar.co.jp/2024/05/22/llgr5_60_handbook.pdf

日本能率協会総合研究所 (2024)

コロナ禍：関係者への影響



日本リハビリテーション病院・施設協会(2021年11月)

住民	● 関係者に依存的な住民グループの再開には問題（主体的な住民グループの再開は良好）
	● 介護予防への意欲低下
行政	● 積極性に課題
担当者	● ネットワークが希薄化
	● 住民との連携が希薄化

リハケア研修大会in広島2023（シンポジウム）

住民(高齢者)が主体的になれない理由

① 高齢者に要因

高齢者の心身の特徴と老いの受容

② 専門職に原因

自立支援の欠如によるパターナリズム

高齢者の特性

多くの疾病に罹患

抑うつ的

生活不活発病

活動性の低下

行動意欲の低下

億劫（おっくう）

年寄りは、何かをする事がひたすら億劫なのである。どうも身体より先に気持ちが蹲（うずくま）ってしまい、動こうとはしない。P９

「老いの味わい」
黒井千次著/中公新書

住民(高齢者)が主体的になれない理由

① 高齢者に要因

高齢者の心身の特徴と老いの受容

② 専門職に原因

自立支援の欠如によるパターナリズム

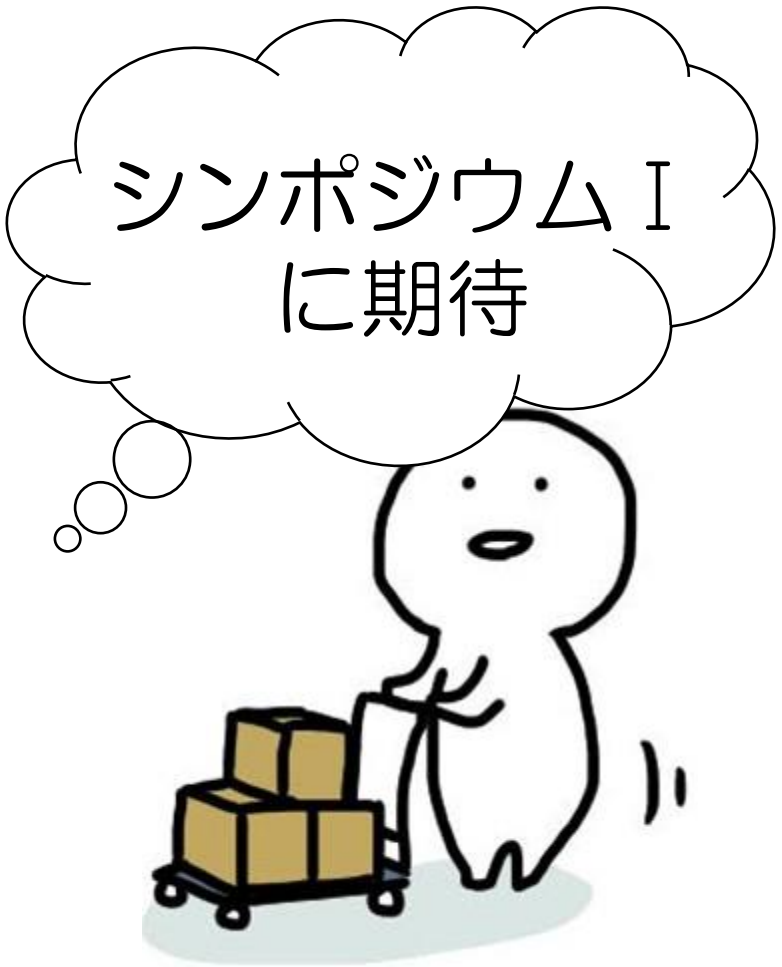
住民主体の運営が期待されているが、住民は運営の自信がないため、専門家に任せたい気持ちもある。

一方、専門家は・・・

高齢者が主体的に なれない？

高齢者が主体的に なるために！

どうも!!
自信もってきました!!
こちらに
おいておきますねー



講演のあらすじ

① コロナ禍の影響：あの時、医療と介護は？

② 高齢者人口の推移と諸問題：2025年/2040年問題

③ 地域リハの歴史から：それら問題の対策は？

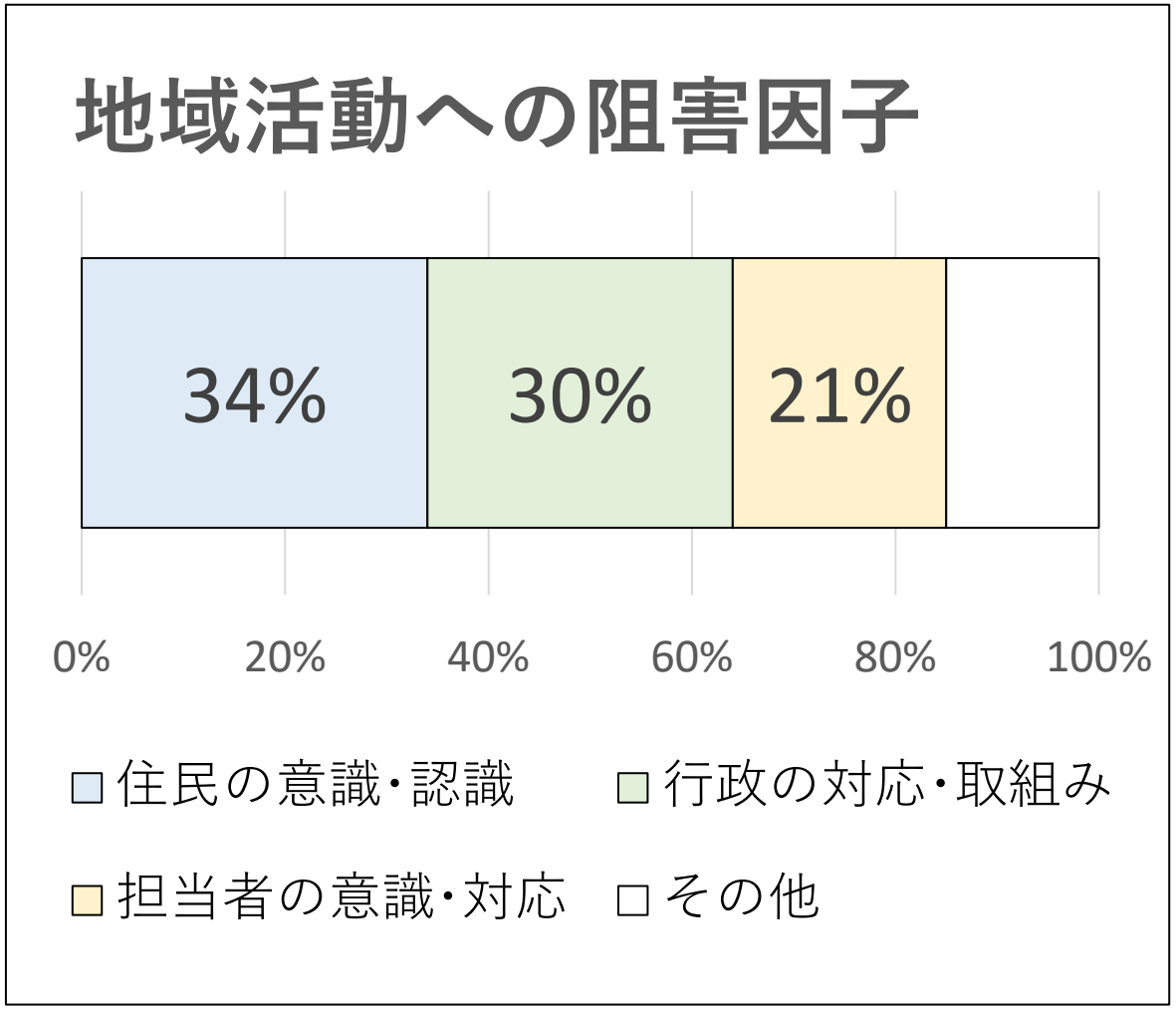
④ 地域包括ケアと推進のカギ：基本戦略は？

⑤ コロナ禍の影響：通いの場は？　住民の主体性は？

⑥ コロナ禍の影響：ネットワークづくりは？

⑦ これからの支援のあり方

コロナ禍：関係者への影響



日本リハビリテーション病院・施設協会(2021年11月)

住民	● 関係者に依存的な住民グループの再開には問題（主体的な住民グループの再開は良好）
	● 介護予防への意欲低下
行政	● 積極性に課題
担当者	● ネットワークが希薄化
	● 住民との連携が希薄化

リハケア研修大会in広島2023（シンポジウム）

2040年問題

高齢者人口がピーク

（団塊ジュニアが高齢者に）

65歳以上
1 人

生産年齢
人口1.5人

労働人口の激減

[2040年問題とは？図解でわかりやすく解説します！（syukatsu-life.com）]

医療介護の人手不足

既存の医療・介護ｻｰﾋﾞｽでは対応困難

地域包括ケア

● 2040年に向けて求められる事

① 予防・リハビリテーションの重視

② 住民の社会参加（もう一つの予防）

③ 多職種連携

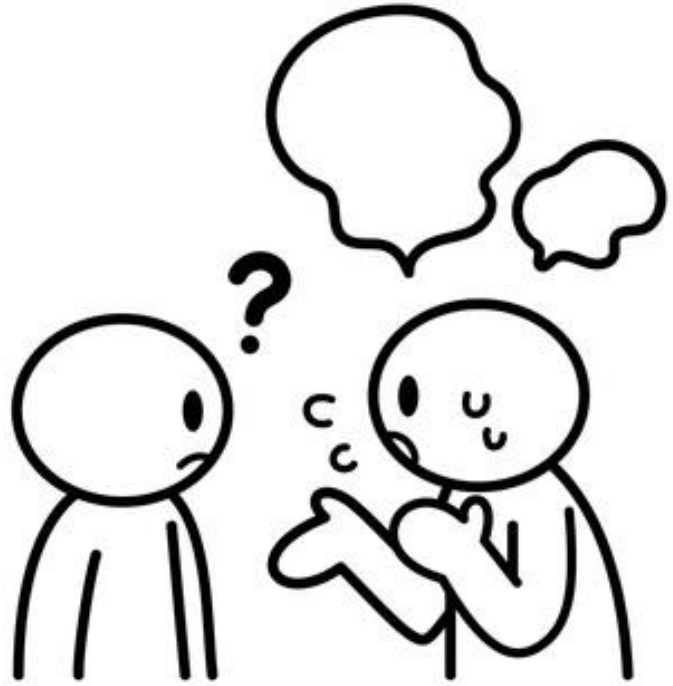
④ 地域マネジメント／わが街をどうするか

市町村が中心に取組むべき

⑤ 地域の実情や創意工夫を活かした体制

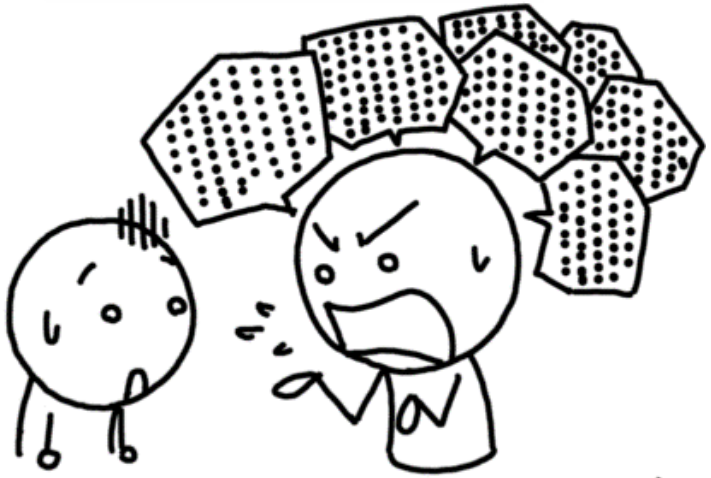
地域包括ケア研究会報告書（H29/2017）

こんな経験はありませんか？



伝わらない！

喋り過ぎ

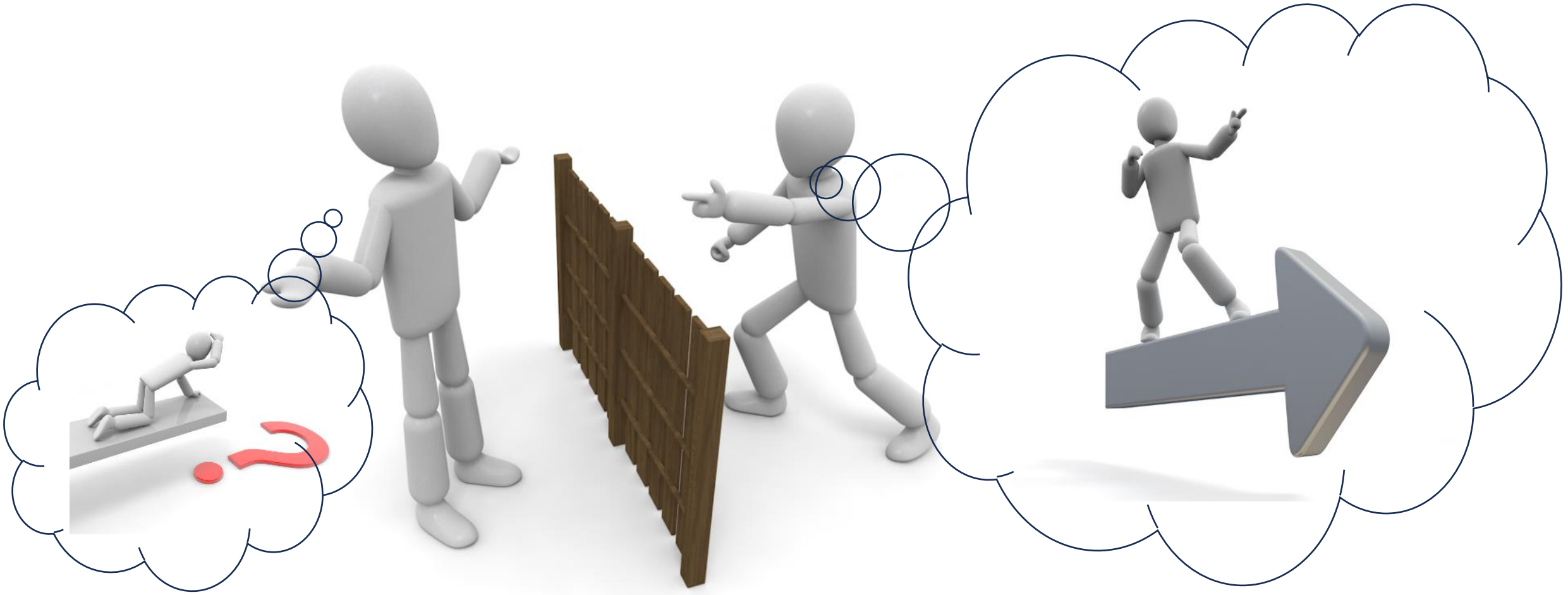


ニーズに応えていない

声小さ過ぎ

話の内容が整理出来ていない

異なった職種間で伝わらない??



異なった職種間で伝わらない！

なんで伝わらない？？相手との間を遮る3つの壁 | イラストで伝える・見せる・考える誰でも描けるイラストプレゼン研究所 (siri-illust.com)

伝わらない理由

- それぞれの専門性発達の背景が異なる
- 専門性特有の視点･思考過程がある
- 専門職特有の行動様式がある
- 専門性に対するこだわりがある

考えられる「壁」対策

なんで伝わらない？？相手との間を遮る3つの壁 | イラストで伝える・見せる・考える誰でも描けるイラストプレゼン研究所 (siri-illust.com)

「理解の壁」の対策

- 専門用語の使用に注意
- 視点・思考過程の違いを理解

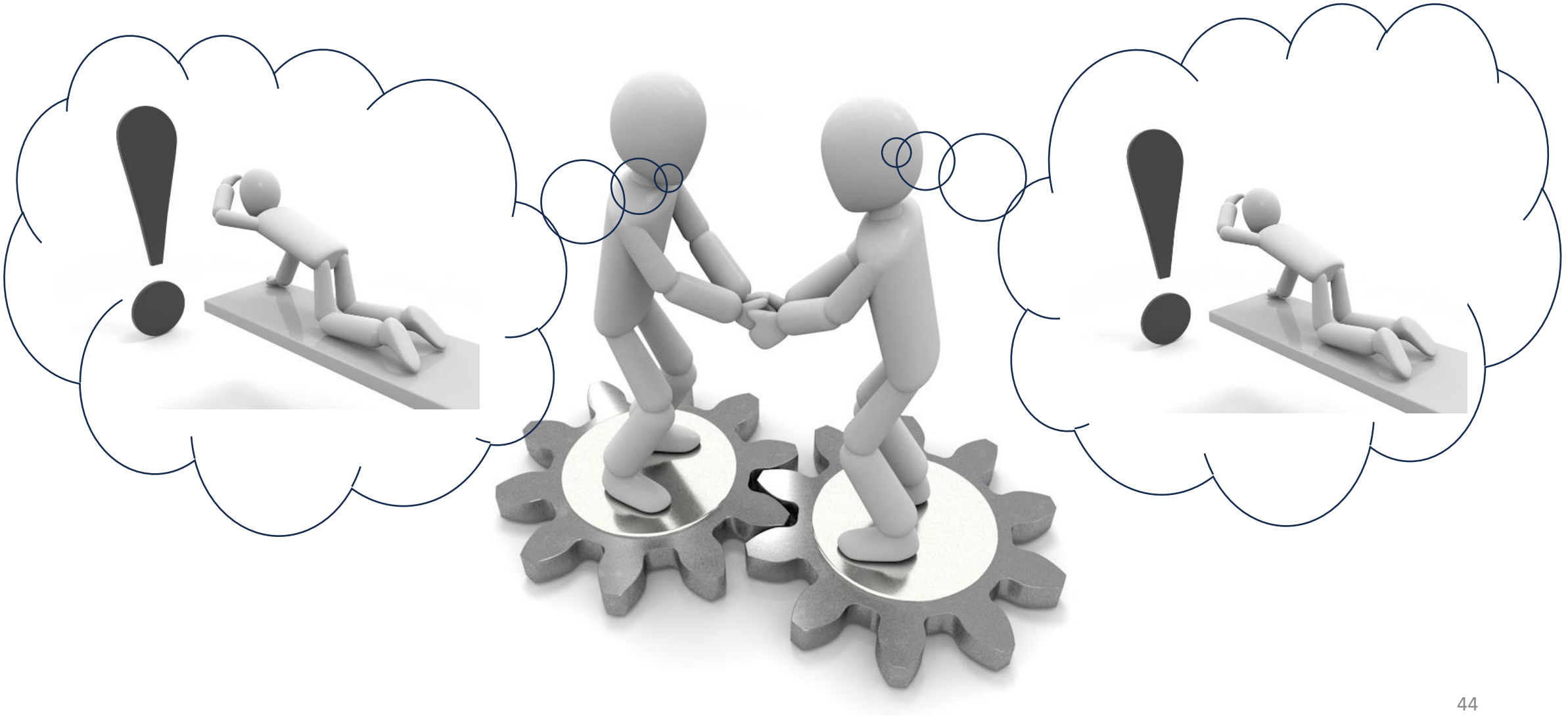
「納得の壁」の対策

- 伝える内容の根拠（数字、事例・エピソード）を示す
- 視覚に訴える

「共感の壁」の対策

- 相手の不安・悩みに寄り添う
- 場を和ませる工夫

異なった職種間でも伝わる！



連携促進の工夫

1）H17年度厚労省補助事業、日本公衆衛生協会
2）松坂誠應、浜村明徳他：リハ医学36、1998.
3）長崎市在宅支援リハビリセンター事業報告書、2020.

- 専門職間（多職種を含む）の連携[1)]

  ① 定例的な協議　② 研修会・ワークショップ　③ 活動の共同企画・運営

- 行政・地域包括支援センターとの連携[2,3)]

  上記①～③　④ 対象者への同行訪問

- かかりつけ医・医師会との連携[2)]

  ①患者往診への同行　②患者・事業に関する報告・連絡

多職種間連携を促進する工夫(1)

① 定期的な多職種会議開催

島原市

地域ケア個別会議（長崎市）

② 研修会・ワークショップの実施

多職種でのワークショップ　長崎市

認知症に関する多職種研修会　島原市

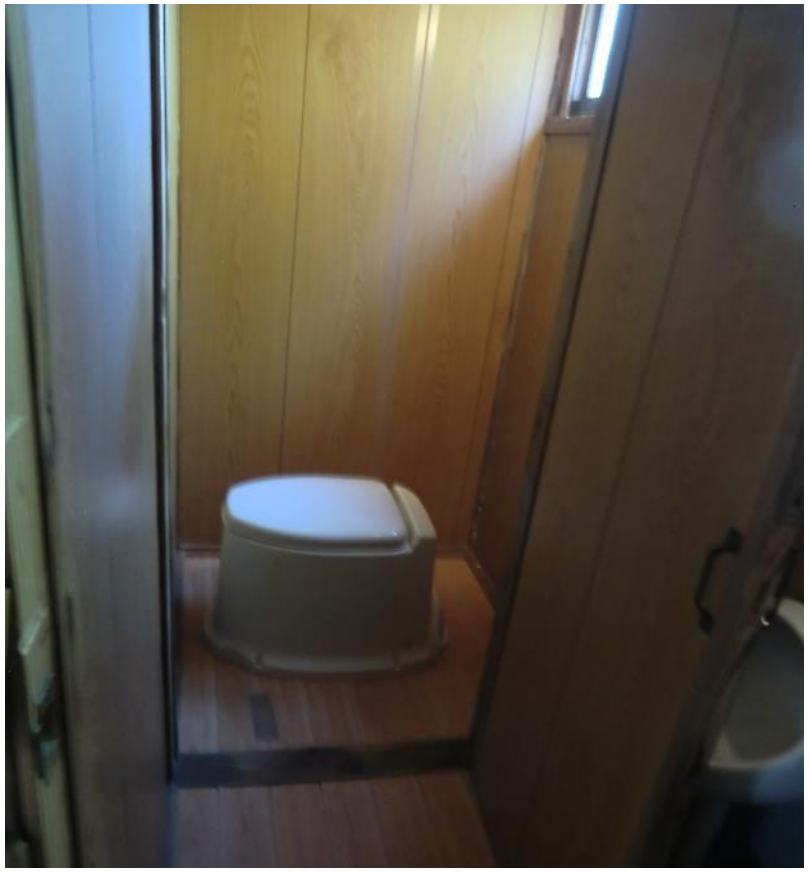
研修会の企画・準備・運営

全国地域リハ研究会
（長崎市2004）

全国地域リハ研究会
（佐世保市2009）

ケアマネジャー

PT



長崎市

同行訪問 (対象者と環境の評価)

行政との連携促進の事例

市町担当課との連携促進

保健･介護予防の一体的事業の企画運営会議
（島原市）

県担当課と市町との連携促進

県の市町ヒヤリングに同行し助言

かかりつけ医との連携

往診への同行

利用者・患者に関する相談

住民との協議/健康問題･やりたい事

専門職との懇談/悩み･疑問の共有

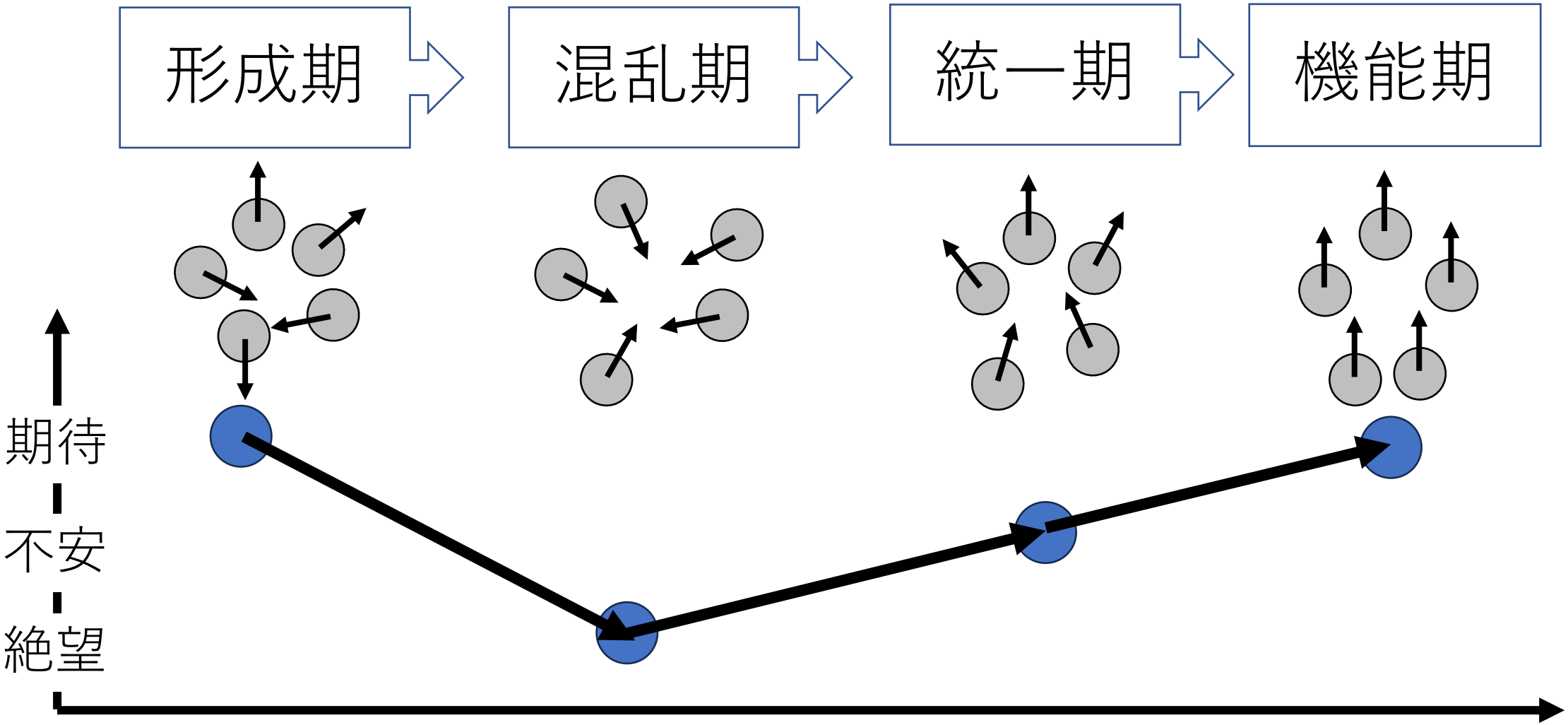
リーダーと専門職との意見交換会

地域住民との連携

長崎市西浦上・三川地区

タックマンモデル（堀公俊ほか、日経新聞出版社）

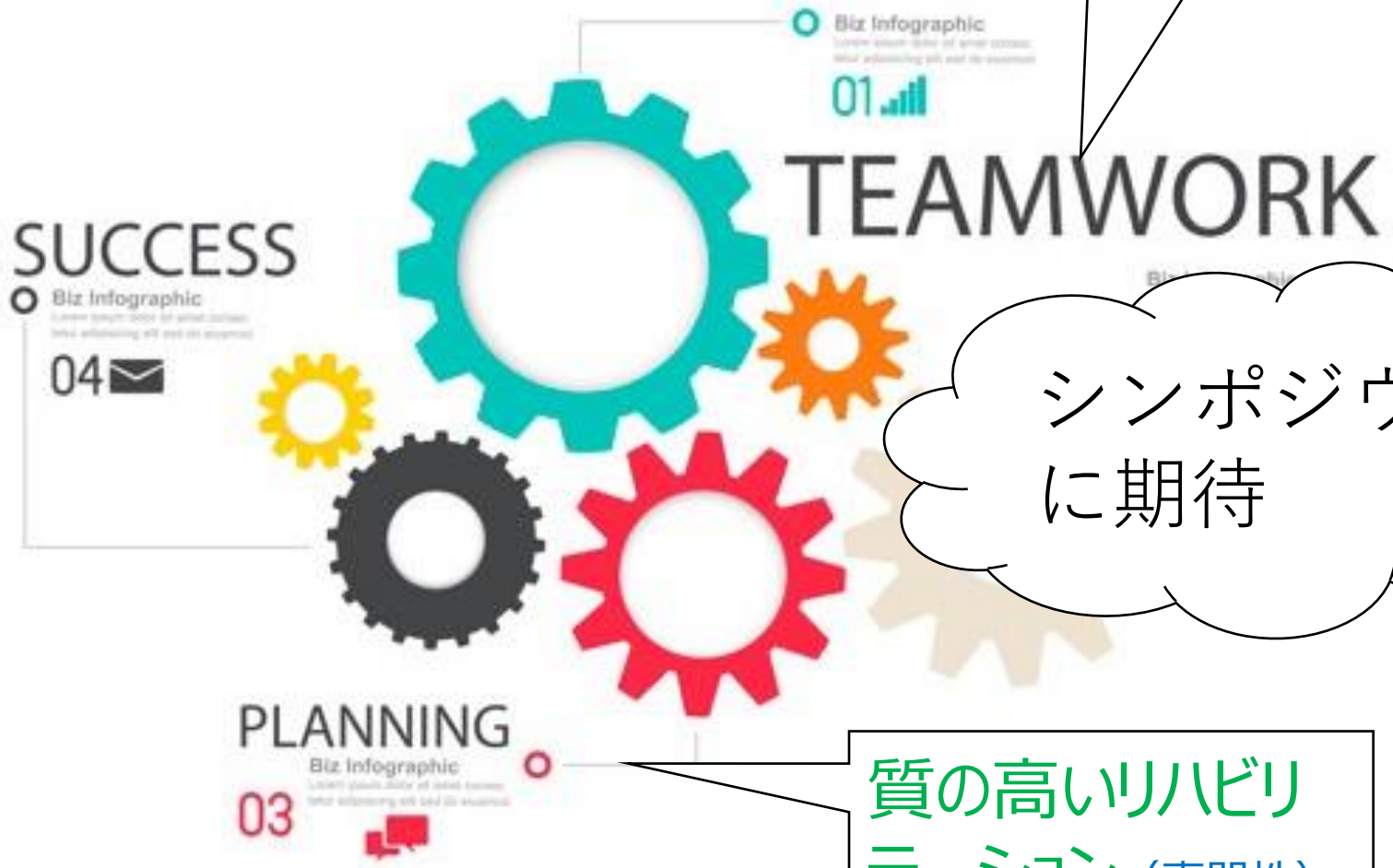
チームづくりのモデル



多職種協働！

チームワーク
（協調性）

難しい!!



シンポジウム!!
に期待

質の高いリハビリテーション（専門性）

講演のあらすじ

① コロナ禍の影響：あの時、医療と介護は？

② 高齢者人口の推移と諸問題：2025年/2040年問題

③ 地域リハの歴史から：それら問題の対策は？

④ 地域包括ケアと推進のカギ：基本戦略は？

⑤ コロナ禍の影響：通いの場は？　住民の主体性は？

⑥ コロナ禍の影響：ネットワークづくりは？

⑦ これからの支援のあり方

2040年問題

高齢者人口がピーク

（団塊ジュニアが高齢者に）

65歳以上
1 人

生産年齢
人口1.5人

労働人口の激減

[2040年問題とは？図解でわかりやすく解説します！（syukatsu-life.com）]

医療介護の人手不足

既存の医療・介護ｻｰﾋﾞｽでは対応困難

地域包括ケア

● 2040年に向けて求められる事

① 予防・リハビリテーションの重視
② 住民の社会参加（もう一つの予防）
③ 多職種連携
④ 地域マネジメント／わが街をどうするか
市町村が中心に取組むべき
⑤ 地域の実情や創意工夫を活かした体制

地域包括ケア研究会報告書（H29/2017）

参加と協働で作る包摂的な社会

近年の傾向

個人・家族

多様な価値観
所得格差
健康格差
多様な住まい方・家族の形

地域・社会

人口規模や都市規模では
説明できない地域の多様性
それぞれの地域の実情

多様化・多元化

2040年に向けた社会　参画と協働

地域実情に合わせたデザイン

サービス

生活を支える
「包括報酬型」在宅サービスの
整備と地域関係者による
サービスの改善

地域の仕組み

地域の実情にあった
連携の仕組み
地域の実情に合わせやすい
制度設計

2040年に向けた取り組み

近年の傾向

個人家族
地域社会
→ 多様化・多元化

地域包括ケア研究会報告書(H30年度)改変

サービス
生活を支える

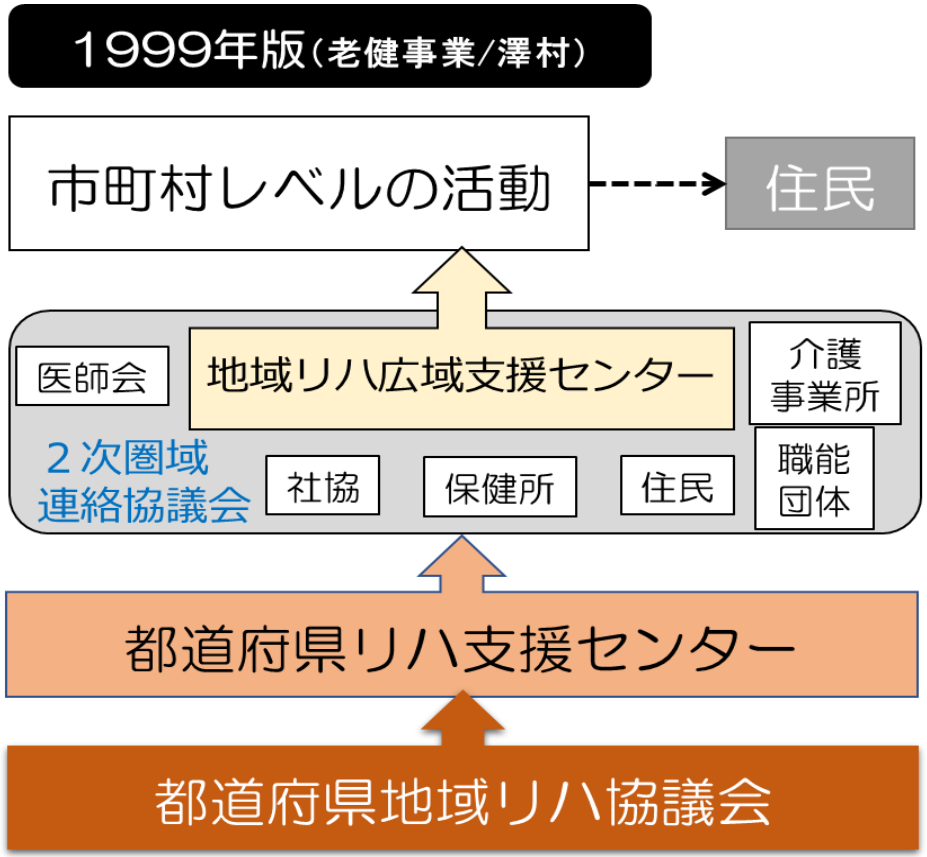
地域の仕組み
地域の実情にあった体制 等

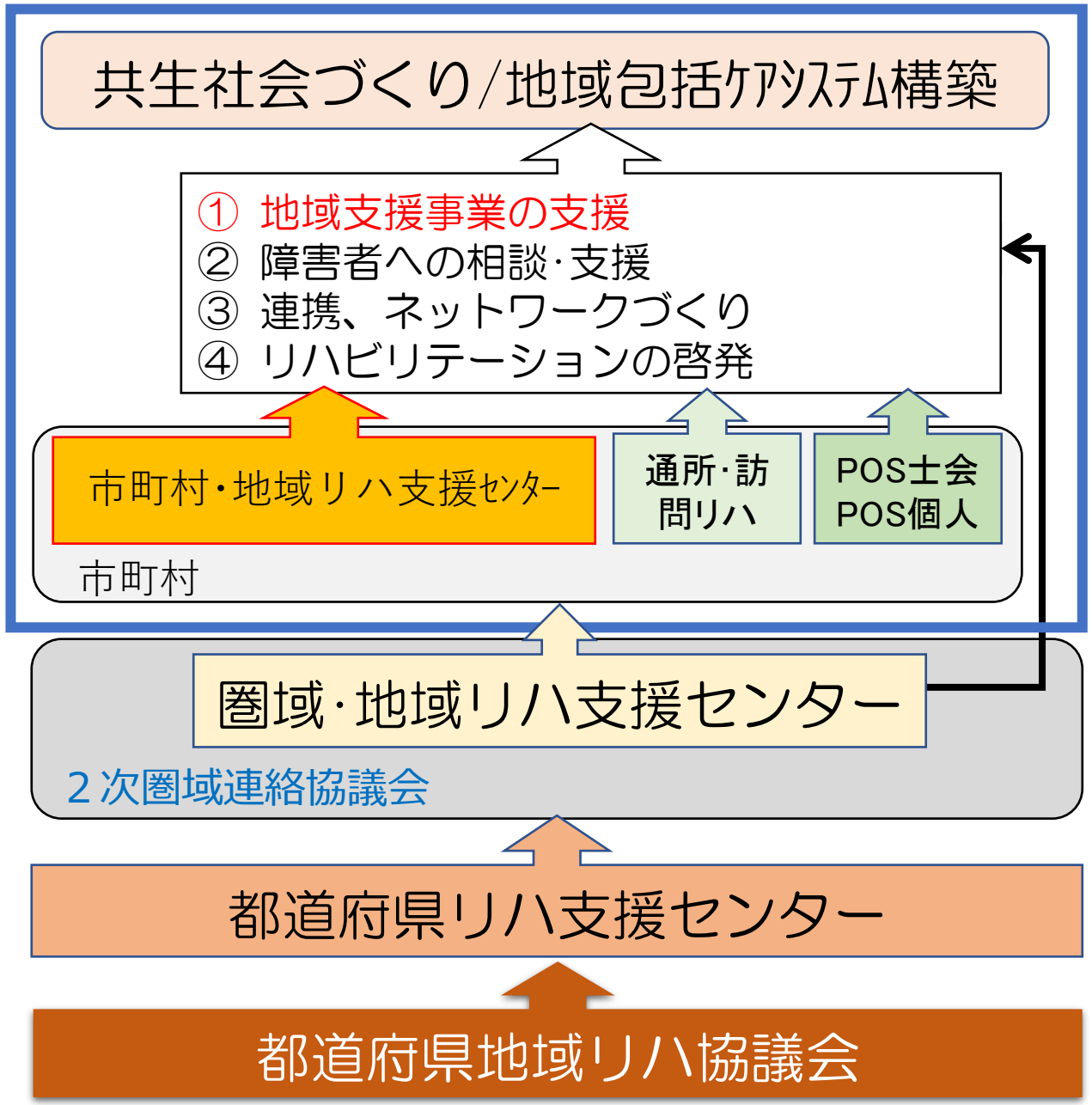
地域デザイン

- 住民が望む地域の姿を描く
- 地域づくりを進める
- みんなで協働して

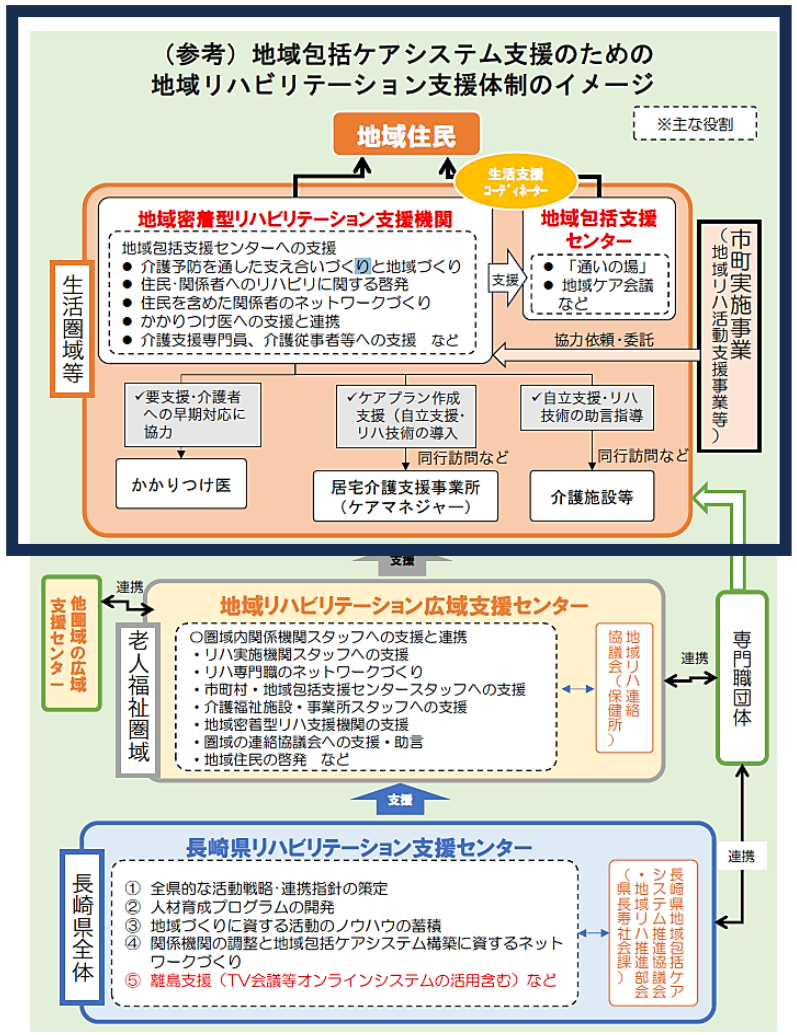
行政： コーディネータ
リーダシップ

これからの支援と支援体制





長崎県で検討してきた新たな支援体制



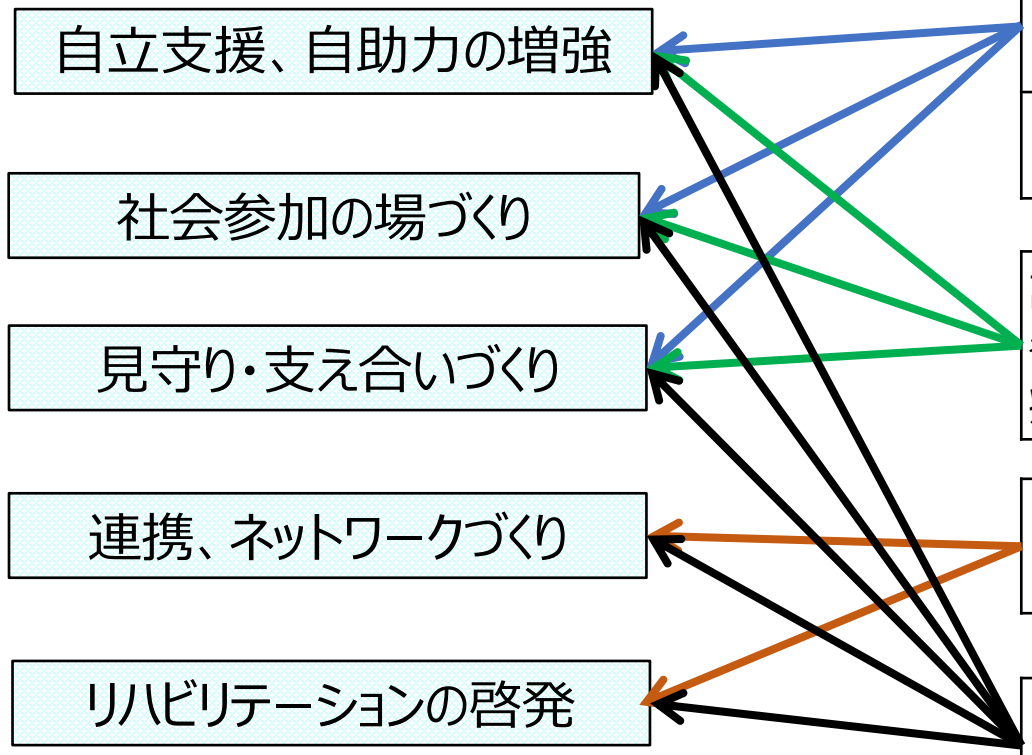
（参考）地域包括ケアシステム支援のための
地域リハビリテーション支援体制のイメージ
※主な役割
地域住民
生活支援コーディネーター
地域密着型リハビリテーション支援機関
地域包括支援センターへの支援
● 介護予防を通した支え合いづくりと地域づくり
● 住民・関係者へのリハビリに関する啓発
● 住民を含めた関係者のネットワークづくり
● かかりつけ医への支援と連携
● 介護支援専門員、介護従事者等への支援　など
地域包括支援センター
● 「通いの場」
● 地域ケア会議
など
支援
協力依頼・委託
（市町実施事業（地域リハ活動支援事業等））
生活圏域等
✓要支援・介護者への早期対応に協力
✓ケアプラン作成支援（自立支援・リハ技術の導入
✓自立支援・リハ技術の助言指導
同行訪問など
同行訪問など
かかりつけ医
居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）
介護施設等

地域支援事業と地域リハ

事業のみを実施するのでなく、
事業を通して地域リハ課題の解決を目指す！

地域包括ケアを推進する 地域リハ課題

- 自立支援、自助力の増強
- 社会参加の場づくり
- 見守り・支え合いづくり
- 連携、ネットワークづくり
- リハビリテーションの啓発



実際の支援活動	関係事業（具体例）
訪問・通所、通いの場など	地域リハ活動支援事業
サロン支援	地域介護予防活動支援事業
訪問・通所A~C	介護予防・生活支援サービス事業
認知症サポーター養成事業、認知症カフェ支援等	認知症総合支援事業 認知症地域支援・ケア向上事業
研修会、介護予防リーダー研修	介護予防普及啓発事業
地域ケア個別・推進会議への参加	地域ケア会議推進事業

これからの地域リハのあり方は？

シンポジウムIIIに期待

① 尊厳の保持（その人らしさ）

② 生活全体を支える

③ 地域の実情にあった支援体制

④ 参加と協働

地域住民＋専門職＋行政＋α

長崎みなとまつり：7/27-7/28
花火：1万発
研修会も花火もお楽しみ
下さい！